

2020年度 事業報告書

2020年4月1日から2021年3月31日まで

特定非営利活動法人 ホロコースト教育資料センター

【1】事業の成果

一人ひとりの命と人権を尊重する心を育み、寛容で公正な社会を築くことを目指して、第二次世界大戦時のホロコースト史を教材とした教育事業を実施した。

グローバル化にともない、多様な文化や人との関わりが増えていく一方で、排他主義や狭義の愛国主義の考え方が広がる傾向があり、街角のヘイトスピーチやネット上のホロコースト否定論は日本の社会にも存在している。第二次世界大戦時のアジアでの日本の加害の歴史に関する歴史修正主義や否定論が、ヘイトスピーチや差別、偏見を助長する側面があり、また、2019年末に発生した新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う差別や偏見の広がりも見られる。このような危機感を持ちながら、当NPOでは、設立以来の事業目的に沿って、歴史の伝承だけでなく、自らの社会をふりかえり、差別や偏見、異なるものを受け入れることができない人間の弱さを考える教育の機会をつくりだすことを目指した。

コロナ禍の中で、学校訪問授業の実施が難しい時期があったが、オンラインに切り替えて、事業を継続することができた。学校訪問授業は36回、オンラインでの主催事業は50回、計86回の実施を通して、延べ9,313名に学習の機会を届けた。

オンラインでは、講演形式だけでなく、問いづくり(Question Formulation Technique)を新しく活用し、対話を促しながら、思考を深めるアクティブラーニングを実施した。ヨーロッパスタディツアーの実施ができないなかで、写真や動画を活用した「オンライン歴史さんぽ」シリーズも新たに教材として開発することができた。

特に、コロナ禍でドイツの公的文化機関ゲーティンストゥートとドイツ外務省によって設立された「国際支援基金」の助成をいただき、オンライン講座「記憶の文化を育む」を開催できたことは次世代の育成にもつながる有意義な取り組みとなった。計7回の講座に国内外20名のアーティストや歴史家を招き、35都市から948名の参加者を迎えた。講師から学ぶだけでなく、若者を中心としたふりかえりの対話の場をつくることができたこと、そして13名の20代の言葉を映像で記録に残すことができた。これらの取り組みを通して、大学生有志が実行委員会を組織し、今年8月に『「わたし」と「れきし」』展の開催を予定している。自らの手で歴史から考え、対話する場を作っていきたいという若者たちの自発的な行動を促すきっかけにすることができた。

コロナ禍で休止していたインターン生の受け入れも、オンラインでの実施を開始し、大学生3名を受け入れて、NPOのスタッフ体験や事業運営の体験の場を提供した。

【2】事業の実施に関する事項

1 教材の制作及び提供事業（展示パネルの貸出）

展示パネルの貸出は昨年度から休止し、視聴覚資料の貸出もテレワークのため実施しなかった。

2 書籍・資料などの収集及び提供事業

関連図書と映像については、インターネット図書館「ブクログ」(<http://booklog.jp/users/therc>)を利用して情報提供を行った。登録数は1,381冊。

3 講演会、セミナー等の開催事業

3-1. 訪問授業・講演会

全国の小・中学校、大学、自治体より依頼を受けて合計36回実施した。新型コロナウイルス感染防止のため、実施がキャンセルとなったのは高校1校

2020/7/9	神戸学院大学	大学	オンライン	社会防災の基礎Ⅰ
2020/7/16	早稲田大学	大学	オンライン	文化構想学部ゼミ
2020/10/7	セントヨゼフ女子学園	中学校	オンライン	教員研修、問いづくりワークショップ
2020/10/21	筑波大学	大学	オンライン	大学院人間総合科学学術院 教育学学位プログラム
2020/10/22	名古屋外国語大学	大学	オンライン	人権学習, シティズンシップ教育
2020/10/28	横浜国立大学	大学	オンライン	問いづくりワークショップ
2020/11/3	人道の港 敦賀ムゼウム	自治体	対面	オープン記念講演ネルディスカッション
2020/11/10	大和市長中央林間小学校	小学校	対面	ハンナのかばん
2020/11/14	中央区立銀座中学校	中学校	対面	人権学習
2020/11/19	田園調布雙葉小学校	小学校	対面	読書活動、平和教育
2020/12/14	厚木市立戸田小学校	小学校	対面	ハンナのかばん
2020/12/17	セントヨゼフ女子学園	中学校	オンライン	命の大切さを学ぶ, 人権学習, 国際理解教育
2020/12/21	北区立田端小学校	小学校	対面	6年生ハンナのかばん, 5年生杉原千畝
2020/12/23	東京純心女子高校	高校	対面	平和学習
2021/1/14	聖心女子学院	中学校	オンライン	人権学習
2021/1/15	早稲田大学	大学	オンライン	社会構築論系講演会「平和をつくることについて語るときに私たちの語ること」パネル参加
2021/1/16	晃華学園	中学校	対面	ハンナのかばん
2021/1/22	座間市立相模野小学校	小学校	対面	6年生 ハンナのかばん
2021/2/3	Hillcrest Community School	小学校	オンライン	ハンナのかばん
2021/2/9	北九州市立大学	大学	オンライン	人権、平和、アウシュヴィッツからの問い
2021/2/10	自由学園	小学校	対面	5年生 ハンナのかばん、人権平和、国際理解教育
2021/2/10	自由学園	小学校	対面	6年生 杉原千畝
2021/2/12	光塩女子学院	小学校	対面	5年生倫理の授業で、ハンナのかばん
2021/2/15	北海道教育大学	大学	オンライン	問いづくりワークショップ
2021/2/16	北海道教育大学	大学	オンライン	平和ラポインタビュー
2021/2/18	北海道教育大学	大学	オンライン	記念碑めぐり～ベルリンとアムステルダム
2021/2/24	綾瀬市立北の台中学校	中学校	対面	ハンナのかばん
2021/3/5	清瀬市立清瀬第三小学校	小学校	対面	6年生 杉原千畝
2021/3/5	清瀬市立清瀬第三小学校	小学校	対面	5年生 ハンナのかばん
2021/3/9	千代田区	自治体	対面	ドラ・グリーンバーグの物語
2021/3/10	鷗友学園	中学校	対面	2年生と去年延期になった3年生と2回実施
2021/3/12	練馬区立開進第三中学校	中学校	対面	卒業前の3年生を対象に
2021/3/16	世田谷区立梅丘中学校	中学校	対面	問いづくりとハンナのかばん
2021/3/24	横浜市立霧が丘中学校	中学校	対面	ハンナのかばん、命の大切さ、人権、国際理解教育

3-2. NPO の自主事業として開催

3-2-1 ホロコーストを教材にしたアクティブラーニング

開催日時	2020/4/15(水)20:00 – 21:30
経緯	コロナ禍で訪問授業の実施が難しくなったため、初めて zoom を使ってオンラインでトライアルとして実施
内容	対面で行っていた写真ワークショップのオンライン版。対話をしながら思考を深めるアクティブラーニング
講師	石岡史子
参加費	無料
対象	Kokor 理事、知り合いの教員の皆さん、16 名
参加者アンケートより	<p>●イベントに飢えてたので物足りなく感じることは特になかったです。皆様とお話できて本当に嬉しかったです。</p> <p>●オンラインでのワークショップ、場所に限定されず、どこに住んでいても参加できるという体験に可能性を感じました。グループディスカッションも有意義で、最近では決まった人達としか話をしていなかったため、写真から考えたこと、皆さんのお話を伺えたことが貴重な体験になりました。(中略)課題はオンラインの環境が整っていないと・・・って言うところですよ。私は zoom はパソコンから、資料はスマホで見ながら・・・という環境で、時々Wifi が繋がりにくくなったりで音声途切れることがありましたが、概ね不便を感じることなく参加できました。家族で参加できるみたいなことも試してみると楽しそうですね。クールダウンのディスカッションがやはり必要なのだと感じました。なかなか興奮が収まらず、井上さんは終了時には就寝していたので私の家族グループラインで体験を話したりして心を落ち着けましたが、明らかに影響を受けた夢をみたりしました。でもそれだけ、オンラインでも心に影響のあるワークショップができるのだと感じました。新たな学びの機会をありがとうございました。</p> <p>●初めて zoom を使いましたが、機能を説明してもらって楽しく参加できました！オンラインとオフラインの違いとしては、やはりオンラインの方が説明を聞いたり理解するのに少し時間がかかって、あっという間に時間がたってしまうという感じがしました。でもそれだけ集中してできたということかもしれません。</p> <p>●深く考えさせられる内容で、とても有意義な時間でした。色々な場所、年齢の方々と意見を交換できる機会は普段あまり無いので、参加できてとても良かったです！哲学対話のように相手の話を深く聞いて考えたいときは、ノンバーバルコミュニケーションも大切な要素だと思っているので、画面越しだとそこにやはり限界があると感じ、いつか実際会って話してみたい！と思いました。大変な事も多いと思いますが、今後の新しい挑戦に陰ながら期待、応援しています。</p> <p>●グループでの話し合いや写真の解説の時間がもう少し欲しかったなと個人的に思いました。とても勉強になりました。</p> <p>●ワークはとても面白かったです。それに対するまとめ、があれば良かったと思います。さらに写真の解説がすべてであるとよいと思いました。前段にビデオ視聴があるというのであればよいと思いますがワークだけではホロコーストのことをほとんど知らない人には、ワークだけでは理解できないこともあるなと思いました。</p> <p>●グループの時間がもう少しあるとありがたかったです。それにしても、初めてお会いするさまざまな場所に住む方とお話できたことはオンラインだからこそだと思うので、オンラインだと難しいこともありながらもオンラインだからこそできることあるので、このような機会を大切にしていきたいと思いました。</p>

3-2-2 読書会&ワークショップ「アンネの日記」

開催日時	2020/4/25(土)20:00 - 21:30
経緯	新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う差別や偏見の広がりが見られるなかで、不自由さや息苦しさを感ずるときだからこそ、史実を通して、対話し思考する時間をつくりたいと考えた。
内容	コロナ禍の苦しみとホロコーストの史実の比較にならないように配慮しながら、アンネ・フランクの言葉やアムステルダムの記念碑を題材にとりあげて、差別や偏見について学び考える機会を提供した。
会場	オンライン zoom ミーティング
講師	石岡史子
参加費	1,000 円、学生無料
対象/参加人数	Kokoro 会員および興味のある方はだれでも/17 名
参加者アンケートより	<p>●zoom 初参加でしたが、オンラインの可能性を感じました。ワークショップの切り口も斬新で、『アンネの日記』の様々な言葉を思い出しました。また GW に参加したいです。</p> <p>●この時期に、アンネの隠れ家生活を改めてみんなで考えることは意義深いと思いました。</p> <p>●アンネの日記、アンネ・フランクに関心がある方々とお話することが出来て良かったです！改めて考えたり学び直すことが出来たと思います。</p> <p>●ワークショップを取り入れた読書会、とても新鮮で勉強になりました。岡さんのお話はドイツの日常、一般の人たちの意識が率直に聴けて参考になりました。管理・規制と自由・経済とのせめぎ合いはどこの国でも苦慮していて、でもそのような中で人権・民主主義をいかに守っていくかが大切なのですね。このような機会をいただいて本当にありがとうございました。どのような状況にあっても何か行動し発信しようとしている(Kokoro)に力をいただきました。ありがとうございました！</p> <p>●「もし、自分だったら」と考えさせられる企画がとても良かったです。不自由さも多い今の生活のせいか、まだまだ想像できないことばかりだとは思いますがいつもより少し隠れ家に潜むことの不安を間近に考えられたかな？ グループトークはもう少し人の意見を聞いて考えを深め合う時間が欲しかった。終わってからの岡さんを中心とした意見交換は充実していました。また参加したいです。</p> <p>●グループワーク、初めて会う方といきなりはちょっと戸惑いもありました。自己紹介が長くなって、本題を話す時間が短くなりました。慣れてくれば、率先的にリードする人も出てくるのかと思いますが、日本人特有なのか？ モジモジしている時間まで来てしまったり。顔が見えない方とは知っている人でも知らない人でも、見えている人もいるので見えないと話しづらいですね。ワークショップ後のおしゃべりがとても良かったです。</p> <p>●このような時期に、新たな試みにチャレンジされることに敬意を表します。今回のセミナーを通して、多くのヒントと共に、自分も何か行動に移してみようという気持ちがありました。セミナー終了後の、話し合い都合により参加出来ず、大変残念でした！ありがとうございました！！</p> <p>●大変良い学びになりました。</p> <p>●breakout の時間では、各地に住む皆さんと意見交換ができたこと、ドイツから岡さんのお話も伺えたことが大きな収穫です。今後開催の際は、breakout の時間を少し長めにしたり、各ルームで話されたことを全体で共有する時間が充分あるとよいと思いました。</p>

3-2-3 ホロコーストを教材にしたアクティブラーニング

2020/4/29	2020/4/29(水)①14:00 – 15:30 ②20:00 – 21:30 開催二回
経緯	4月15日のトライアル(3-2-1)を経て実施
内容	ホロコーストの歴史のいくつかの場面を切り取った写真を用いて、対話し、思考を深めるアクティブラーニング
会場	オンライン zoom ミーティング
講師	石岡史子
対象/参加人数	教育関係者および興味のある方はどなたでも/計32名
参加費	無料
参加者アンケートより	<p>●高校で教員をしています。自分自身の授業でもホロコーストを扱ったアクティブラーニングを試みています。写真から考える、タイトルをつけてみる、といった取り組みはとても参考になりました。私たち教員はつい、伝えたいことが先走ってしまい衝撃の強い題材を見せてしまいがちです。教師は教える権利はあっても、トラウマを与える権利はないと思っています。ソフトな題材でも心に響く術はないかと日々模索しておりますが、今回のワークショップではそのヒントを得ることができました。また遠隔のため各地からの参加者の方とお話できたのも良かったです。</p> <p>●オンラインという形式でのホロコーストに関するアクティブラーニングのとても良見本となりました。多角的な視野からホロコーストを扱っていただき、自分も視野が広がった思いです。</p> <p>●コーディネーターが素晴らしく、通信でもストレスフリーでした。参加されている方々の意識が高く、モチベーションが沸きました。</p> <p>●「ユダヤ人は下等」「自分は優位」と少しずつ思いこんでしまった人について、学びました。ユダヤ人のことを、痛みを感じる同じ人間と、思えなくなったと理解しました。同調圧力に飲み込まれないように、自分のハンドルをちゃんと持ち続けようと思いました。</p> <p>●大変面白いワークショップでした。高校現場でもぜひチャレンジしてみたいと思いました。どうしても虐殺という痛ましい部分に注目しがちですが、普通の私たちの日常と同じ場面からすでにはじまっていたんだというところに注目させている点はとても勉強になりました。</p> <p>●写真の順序が印象的でした。意図されたのでしょうか？最後にユダヤ人が置いていった家財道具をオークションにかけてる写真を持ってくるのは、非常に興味深かったです。</p> <p>●ワークショップの前と後では物事の見方が変わる、大変有意義なワークショップでした。グループに別れて話す時間や聴講者の反応を求める時間などを取っていただき、アクティブラーニングを実感することができました。zoomの勉強会にはいくつか参加してきましたが、一方的なものが多く、今回のようにインタラクティブな要素をふんだんに盛り込んだものは初めてでした。ですがこうした「考える時間」をとることこそ、ホロコーストに向かい合うときに最も重要なことなのだと思います。</p> <p>●ホロコーストについて、「普通の市民が加担した」という今までとは異なる視点を得ることができました。学校でのアプローチに生かしたいと思います。</p> <p>●zoomの使い方も、勉強になりました。</p> <p>●他の人と話すことで考えが発展し、気づきがありました。こんな経験をより多くの方にしてほしいです。教える立場のものとして参考になりました。</p> <p>●多くの地方の方とお話できたのはオンラインならではの良かったと思います。</p> <p>●いろいろな視点からホロコーストを考えることができ、とても勉強になりました。集まることできない中、zoomでの開催をして頂き本当にありがとうございました。</p>

3-2-4 オンライン歴史さんぽ Memory Walk ベルリン

開催日時	2020/5/3(日)20:00 – 21:30
経緯	2015年から大学生向けに10回、教員向けに2回実施したヨーロッパスタディツアーがコロナ禍で実施できなくなったため、オンラインで実施できるようなプログラムを用意した。ガイドによる現地ライブ中継ではなく、写真や動画を用いて、ベルリンの記念碑を紹介し、対話や思考の時間をつくることを重視した。
内容	ベルリンの街中を紹介しながら、ナチ時代の記念碑に注目し、「記憶の文化」について学び考える。クイズ、質疑応答を通して対話の時間も作る。
会場	オンライン zoom ミーティング
講師	石岡史子
ゲスト	岡裕人さん 『忘却に抵抗するドイツ』著者、フランクフルト 瀧元深祈さん ベルリン自由大学
対象/参加人数	Kokoro 会員および興味のある方はどなたでも/26名
参加費	1,000円、学生無料
参加者アンケートより	<ul style="list-style-type: none"> ●いま若い人たちは語りたいと思っています。若い人たちが集まって、思いっきり語り合えるような会もぜひ企画してあげてください。こういうときこそ、哲学対話が必要な気がしています。 ●スタッフの皆さん、本当にありがとうございました。「アンネの日記」読書会に続き、「ベルリンウオーク」でも、たくさんの写真を見せていただき、実際にベルリンの町歩きをしている気分になりました。グループセッションも面白かったです。ちょうどベルリン在住の日本人作家、多和田葉子さんの『100年の散歩』という本を読んでいたもので、臨場感がありました。またの機会を楽しみにしています。 ●共有感があって良かった。ホストさんの展開が自然で、話しやすい感じがしました。大変良かったです。このように、色々な人と話せるのは、良かったです。 ●zoomを使った講演会、という形式は初めての体験でしたが、講演あり、グループディスカッションあり、また国内、海外各地からの参加ありで、バックグラウンドの異なる方々から一度にお話を伺う機会を持てたことはとても有益でした。講演の後に、自然ながれで雑談会のような会話になりましたが、これまたとても面白くためになりました（zoom 打ち上げでしょうか）。こちらの準備のレベル次第で、このような講演会がより内容深いものにもなる、という感想を持ちました。 ●ただ記念碑の紹介を聞くだけなら本を読めばいい話ですが、いろんな問題点などを議論する時間があったので、それだけでイベントに参加する価値があったと思います。 ●ベルリンに行って実際に見てみたいくなりました。 ●非常に考えさせられる内容でした。なかなか難しいテーマだからこそ、今回のようにオンラインなども駆使して様々な方が参加されるようなイベントとなることを願っています。オンラインでの開催は当初予期していなかったものだったのかもしれませんが zoom の機能を非常に生かした良いイベントでした。 ●ベルリンは行ったことがないですが、実際に行ったような気持ちで街を観ることができました。説明量・方法も適切で、とても面白くて参考になりました。ありがとうございました！

3-2-5 小学生ワークショップ「アンネの日記」

開催日時	2020/5/5(火・祝)
経緯	4月25日に一般向けで開催したワークショップを、子どもの日にあわせて、小学生対象で実施
内容	コロナ禍の苦しみとホロコーストの史実の比較にならないように配慮しながら、アンネ・フランクの言葉やアムステルダムの記念碑を題材にとりあげて、自由とは何か、差別、偏見のテーマについて考え対話する
会場	オンライン zoom ミーティング
参加費	500円
対象/参加人数	小学生限定、7人

3-2-6 戦後75年ダイアログ

開催日時	2020/5/15(金)20:00 - 22:00
経緯	戦後75年の節目に企画されていた様々な行事が各地でキャンセルとなったが、対話の機会をつくりたいと考え、平和・戦争関連団体と共に実施
内容	日本とドイツの記憶の文化についてのフリートーク
会場	オンライン zoom ミーティング
対象/参加人数	Kokoro 会員および平和関連博物館関係者/30名

3-2-7 大学生協ヨーロッパピーススタディツアー説明会

開催日時	2020/5/16(土)20:00 - 21:00
経緯	2015年から実施している、大学生協ヨーロッパスタディツアーの説明会
内容	過去のツアー行程をたどりながら、ポーランドやドイツの「記憶の文化」を紹介する
会場	オンライン zoom ミーティング
講師	石岡史子
参加費	無料
対象/参加人数	大学生/66名

3-2-8 大学生ワークショップ「アウシュヴィッツからの問い」

開催日時	2020/5/24(日)20:00 - 21:40
経緯	コロナ禍で先が見えないなか、大学生たちが同世代同士で対話する機会をつくりたいと考え実施した
内容	写真を見ながら、対話し、思考を深めるワークショップ
講師	石岡史子
参加費	無料
参加者	大学生/26名
参加者アンケートより	<ul style="list-style-type: none"> ●進行もグループもとても話しやすくていい会でした。 ●今までアウシュビッツについて加害者はよく残酷な事を平気でやっていたなと思っていたが、実は自分達もファストファッションやバナナ、チョコなどの問題と彼ら加害者と重なる部分があるなと思った。笑顔でお洒落したりおいしいものを食べている私達の笑顔の裏側で悲惨なことが起きていることに気付かされた ●初めて参加しましたが、グループワークを通して自分で考えながら学ぶことができました。よかったです。 ●他の参加者の方とお話しながら参加出来て良かったです。ドイツの博物館、行ってみたい…！

3-2-9 ホロコーストを教材にしたアクティブラーニング 開催第3回

開催日時	2020/5/30(日)20:00 – 21:45
内容	3-2-1 参照
会場	オンライン zoom ミーティング
講師	石岡史子
参加費	1,000 円
対象/参加人数	教育関係者および興味のある方はどなたでも/16 名

3-2-10 ホロコーストを教材にしたアクティブラーニング 開催第4回

開催日時	2020/5/31(日)14:00 – 15:45
内容	3-2-1 参照
会場	オンライン zoom ミーティング
講師	石岡史子
参加費	1,000 円
対象/参加人数	教育関係者および興味のある方はどなたでも/8 名

3-2-11 Memory walk ベルリン Part 2 ～ミュージアム編

開催日時	2020/6/5(金)20:00 – 21:45
内容	5/3 の開催(3-2-4 参照)に続き、ベルリンのナチ時代およびホロコースト関連のミュージアムを3つ紹介しながら「記憶の文化」について学び考える
会場	オンライン zoom ミーティング
講師	石岡史子
参加費	1,000 円、応援チケット 2,000 円、学生無料
対象/参加人数	Kokoro 会員および興味のある方はどなたでも/28 名
参加者アンケートより	<ul style="list-style-type: none"> ●日本の右翼団体がザクセンハウゼンを訪れていたことを知り大変勉強になりました。 ●ドイツに、特色あるホロコースト系博物館が、数多くあること自体、知らなかったもので、驚きました。 ●とても興味深い内容でした。興味がある者にとっては盛り沢山でしたのでとても満足しました。1000 円では安い?!のではと思いました！ ●とても勉強になりました ●メモリアルウォークありがとうございました。ドイツは過去の歴史を認めて、それを忘れないように取り組んでいてすごいとずっと思っていたのですが、そこに至るまでには紆余曲折があり、ようやくこのような博物館ができたのだと知りました。石岡さんが実際に見た博物館の印象や感想を交えてお話しいただいたので、ただ本を読んだりして学ぶよりもとても面白かったです。 ●グループトークで、別の方が現在のアメリカでの黒人差別問に触れられハッとしました。人権という観点で現在に繋がっているし、石岡さんが教えて下さった「良心に従う」という言葉がすとききました。充実した時間をありがとうございました。 ●単に観光で行くのでは分からない(そもそも行くことが難しい)、3つのミュージアムを通して、ドイツが普通の人たちや権力を持つ立場の公務員などひとりひとりの責任を問かける学びの場を設けていることがよく理解できました。ありがとうございました！ ●ただ話を聞くだけでなく自分の意見を言う時間があったので考えながら話を聞くことができました。 ●初めて参加したのですが、とても良い学びの機会でした。

3-2-12 ホロコーストを教材にしたアクティブラーニング 開催第 5 回

開催日時	2020/6/6(土)20:00 – 21:30
内容	3-2-1 参照
会場	オンライン zoom ミーティング
講師	石岡史子
参加費	1,000 円
対象/参加人数	教育関係者および興味のある方はどなたでも/6 名
参加者アンケートより	<p>●他の人の視点を聞くことは大変参考になりました。また、なによりオンライン講座は大変勉強になり感謝しています。「なぜ？」に答えを求め続けることが大事なことでだと改めて感じた しいです。(一方で自分にとってそれは難しいことだと感じる時があります。)</p> <p>●内容はとても素晴らしいものでした。歴史を知ることを通して、今を生きる自分や世の中の在り方を考えるという視点が一貫していて、子どもたちへの教育もこれこそ大事なんだと再確認しました。お陰様で主体的・対話的で深い学びとなりました。</p>

3-2-13 オンライン歴史さんぽ～アムステルダム編

開催日時	2020/6/12(金)20:00 – 21:30
経緯	アンネ・フランク生誕記念日にあわせて、オンライン歴史さんぽシリーズとのアムステルダム編として開催
内容	アムステルダムの街中を写真や動画で紹介しながら、アンネ・フランクやナチ時代の記念碑をたどる。日本にゆかりのある記念碑や抵抗記念館も。ホロコーストの歴史がオランダではどのように記憶されているかを学び考える。
会場	オンライン zoom ミーティング
講師	石岡史子
参加費	1,000 円、応援チケット 2,000 円、学生無料
対象/参加人数	Kokoro 会員および興味のある方はどなたでも/37 名
参加者アンケートより	<p>●幅広い年齢層と地域の方と会えて楽しかった。</p> <p>●アムステルダムの美しい街並みの中に、戦争の記録が様々なかたちで残されており、現地に行きたいという思いを再確認いたしました。日本でも今一度、負の記憶について、加害・被害の両面からアーカイブの仕方を見直すべきだなと感じました。</p> <p>●西宮のアンネ資料館の坂本館長さんとせっかく同じグループでしたが、詳しいお話までは聴く時間がなく残念。でも、これをきっかけに学ばせていただきます。今日も、子どもたちを護ろうとしたり抵抗しようとした市民の姿、またオランダ領東インドを通して日本がオランダ市民に対して行った加害など、学ぶこと、考えさせられることが多く、勉強になりました。</p> <p>●最初の問い「なぜアンナは有名なのか」がすばらしい！あの問いを考えながら、時と場所を超えてアムステルダムを歩いているようでした。</p> <p>●現在の博物館などの展示からの「あなたはどうしますか？」という問いかけは、戦後の戦争責任「ナチス時代にあなたは何をしていたのか？」という問いから生まれたように感じました。企画終了後、フリーでいろんな方のお話が聞けて有意義でした。</p> <p>●歴史の記憶と共に、次世代への継承についての取り組みを知ることができた。日本において国際的視野からの歴史教育は、ヨーロッパから学ぶべき点が多くあると感じました。</p> <p>●大学では倫理学を専攻していて興味がわいて今回初めて参加させて頂きました。アウシュヴィッツに送られる前の収容所の写真、4 人の子どもと現在がとても印象的でした。それぞれの故郷の文化や信仰・思想との結びつき探ってみたく感じました。</p> <p>●歴史を過去の出来事とだけ見るのではなく、これからの生き方、在り方を考えるきっかけとしなければならないことがよく分かったひとときでした。</p>

3-2-14 ホロコーストを教材にしたアクティブラーニング 開催第 6 回

開催日時	2020/6/19(金)20:00 - 21:45
内容	3-2-1 参照
会場	オンライン zoom ミーティング
講師	石岡史子
参加費	1,000 円
対象/参加人数	教育関係者および興味のある方はどなたでも/11 名

3-2-15 戦後 75 年ダイアログ 第 2 回

開催日時	2020/6/20(土)20:00 -
内容	3-2-6 の第 2 回目
会場	オンライン zoom ミーティング
参加費	無料
対象/参加人数	Kokoro 会員および平和関連博物館関係者/30 名

3-2-16 オンライン歴史さんぽ～ベルリン編 開催第 2 回

開催日時	2020/6/26(金)20:00 - 21:45
内容	3-2-4 の第 2 回目
会場	オンライン zoom ミーティング
講師	石岡史子
参加費	1,000 円、応援チケット 2,000 円、学生無料
対象/参加人数	Kokoro 会員および興味のある方はどなたでも/25 名
参加者アンケートより	<ul style="list-style-type: none"> ●歴史の「記憶」の仕方について、新しい視点をいただきました。 ●つまづきの石に反対する人の意見を想像するというワークも、新たな気づきがあったと思います。 ●ドイツがひとりひとりの被害者を記憶しようとする姿勢がすごいと改めて感じました。日本でもきちんと議論ができるようになればと色々考えさせられました。 ●名を残すこと 歴史を記憶することの意味を深く考えさせられました。 ●自分が今、当たり前の日常生活を送っていることに感謝するとともに、過去の過ちを知り、問題意識をもって生きることの大切さを学ぶことができました。 ●ブランデンブルク門から至近距離にドイツの国会議事堂とナチスのメモリアルスポットがあると知って、確かあのあたりが以前、ベルリンの壁があったところではというイメージが頭をよぎってしまいました。私は 60 歳、ドイツやベルリンに何らかの違和感を持って育った世代です。 ●ベルリンの記念碑について学ぶことができ満足でした。機会があれば、実際にベルリンに行って、見てみたいという気持ちになりました。 ●石岡代表への質疑応答の時間がもっとあれば、いいと思います。

3-2-17 ホロコーストを教材にしたアクティブラーニング 開催第 7 回

開催日時	2020/6/28(日)14:00 - 15:45
内容	3-2-1 参照
会場	オンライン zoom ミーティング
講師	石岡史子
参加費	1,000 円

対象/参加人数	教育関係者および興味のある方はどなたでも/7名
参加者アンケートより	<p>●たいへん興味深く刺激的だった。また参加したい。</p> <p>●細やかな配慮があって、終始安心して参加することができました。内容もよく、教師をされている方が子どもたちとこのように学べたら互いに深まるだろうと感じました。そして、私自身、また現在に引き寄せて「自分だったらどうするか」と問ういい機会となりました。</p> <p>●発言の誘導を指名してくださり、全員が意見を言えたことで、充実しました。画面を通してなので、逆に他人の目を意識せず述べることができたかもしれません。参加しやすかったです。また、集会よりも少人数なので、話しやすかったです。</p> <p>●2時間あればもう少し思考を深められたのではないかと。</p>

3-2-18 オンライン歴史さんぽ～アムステルダム編 開催第2回

開催日時	2020/7/17(金)20:00 – 21:45
内容	3-2-13 参照
会場	オンライン zoom ミーティング
講師	石岡史子
参加費	1,000 円、応援チケット 2,000 円、学生無料
対象/参加人数	Kokoro 会員および興味のある方はどなたでも/30名
参加者アンケートより	<p>●初めてオンラインツアーに参加しました。実際に町歩きをしているかのように工夫して説明をしてくださって、想像していたよりも遥かに楽しめました。隠れ家の中までバーチャルで見られるんですね。お話もしっかり伺え、素晴らしい博物館も紹介していただき、考えさせられることが多かったです。最初のグループトークが別の音声が入ってしまい、しっかり出来なかったのが心残りでした。最後にグループの方とさよならの時間が欲しかった、というのも思いました。とは言え、とても充実した内容でした。参加して良かったです。</p> <p>●アムステルダムの様子がよくわかりました。アンネがそこで生きていたんだ、ということが実感できました。そして残していこうとしている人々の取り組み</p> <p>●アンネの隠れ家だけでなく、ユダヤ人迫害が始まる前に住んでいた家や、ホロコーストが始まった頃のこと、慰霊塔とレジスタンスミュージアムのことも知ることができて、もっと知りたい、また学んでみたいと思いました。とても充実したひとときでした。(略)私の勤める幼稚園では、毎夏「平和を考える会」という時をもち、母子で平和について考えます。原爆のこと、沖縄戦のこと、シリアのこと、ボスニアヘルツェゴビナのこと、マザー・テレサのことなど、毎年テーマを持ち行っています。私は、いつか、アンネのことやドイツ平和村のことを取り上げたいと思っています。今回のオンライン研修でこちらの団体のことを初めて知りました。</p> <p>●初体験でしたので少し緊張をしましたが、柔らかい誘導と内容が興味がありまして参加できましたことに感謝しております。またチャンスがありましたら参加したく思っています。</p> <p>●動画、スライド等の情報もたくさんあってとても分かりやすかったです。一度アムステルダムやアンネの家に行ったことがある身としても、学ぶことばかりで大変参考になりました。</p>

3-2-19 オンライン歴史さんぽ～ベルリン編 Part 2 開催第2回

開催日時	2020/7/18(土)20:00 – 21:45
内容	3-2-11 参照
会場	オンライン zoom ミーティング
講師	石岡史子
参加費	1,000 円、応援チケット 2,000 円、学生無料

対象/参加人数	Kokoro 会員および興味のある方はどなたでも/22 名
参加者アンケートより	<p>●一つ一つの博物館について、設立経緯も含めじっくり聞くことができたので大変勉強になりました。ありがとうございました。</p> <p>●色々な場所で、多くの人たちが議論を重ねたからこそできた新しい遺産だと思います。更新する大切さにも気づきました。日本のもっと多くの人たちともシェアしたいと思いました。</p> <p>●ミュージアム、行ってみたいです。途中でクイズや休憩があるのはよかったです。</p> <p>●ドイツのナチスの負の歴史ミュージアムについては、殆ど知識がなかったので、良く理解できて良かったです。また是非参加させて頂きたいです。ありがとうございました。</p> <p>●今回も、本当に良い時間でした。ありがとうございました。</p> <p>●三択の質問、全問不正解でした。考えたつもりなのですが、負け惜しみではなく、それだけいい質問だったと思います。お話や運営も含めて、とても分かりやすく引き込まれる内容でした。改めて知らないことがいっぱいあると感じました。小グループトークもよかったです。今後の旅行にはぜひ参加させていただきますが、こういう形で事前にお互いが知りあえば期待もさらに膨らみますね。</p> <p>●単に来る客を待っているだけでなく、歴史ある土地をその後の教育施設として生かしたり、歴史のひとコマの具体物から「その時」と「今」を考えさせたりする見せ方に感心しました。新たな視点をあたえていただきありがとうございます。</p> <p>●コロナの状況下で、実際に現地へ行っているようで、楽しく学べました。またぜひ参加したいと考えております。</p> <p>●参加者の人数もちょうどよく、アットホームな雰囲気、参加しやすかったです。またこのようなイベントを開催していただきたいです！</p>

3-2-20 ドイツ国際平和村を訪ねてみませんか

開催日時	2020/7/19(日)14:30 – 16:30
経緯	戦後 75 周年の節目にドイツ国際平和村訪問を含むドイツスタディツアーを計画していたが、新型コロナウイルス感染症拡大により延期となった。そのためオンラインで学習の機会を計画した。
内容	紛争地域で傷つき、自国では十分な治療を受けられない子どもたちを連れてきて治療し、治ったら母国へ帰す「援助飛行」という活動を行っている NGO 「ドイツ国際平和村」について、「ドイツ平和村をサポートする会」代表の秋山典子さんから学ぶ。秋山さんご自身が平和村の支援を始めたきっかけや、平和村が目指していることなどについて詳しく話を聞くことができた。
会場	オンライン zoom ミーティング
講師	秋本典子さん、「ドイツ平和村をサポートする会」
参加費	1,000 円、応援チケット 2,000 円、学生 500 円
対象/参加人数	Kokoro 会員および興味のある方はどなたでも/30 名
参加者アンケートより	<p>●秋山さんの情熱が伝わってきました。たえこさんと岡さんのおかげでより多角的なセッションになりましたね。大学生の存在も大きかったように感じます。</p> <p>●実際の講演会に行くのと同じくらい、ドイツ国際平和村のことがよくわかり、またそれに関わる人の熱意もひしひしと伝わってきました。私もこの場所の存在について、周りの人に伝えていきます。良い企画をありがとうございました。</p> <p>●平和村の考え方が良くわかりました。以前から気にはしていたのですが、もっと早くちゃんと調べて訪問すべきだったと悔やんでいます。秋山さんが 57 歳でボランティアに旅立たれた決意と、その後今もサポートする会を立ち上げ伝え続けている姿に感動しました。参加者の皆様も多彩な顔ぶれで本当にいい会でした。●秋山さんのお話がすごく分かりやすくて印象に残りました。すごく考えさせられる内容となりました。</p>

3-2-21 ホロコーストを教材にしたアクティブラーニング 開催第 8 回

開催日時	2020/7/25(土)20:00 - 21:45
内容	3-2-1 参照
会場	オンライン zoom ミーティング
講師	石岡史子
参加費	1,000 円
対象/参加人数	教育関係者および興味のある方はどなたでも/13 名
参加者アンケートより	<p>●ホロコーストに至るプロセスを、何気ない日常生活を写した 4 枚の写真を深く読み込むことで、理解するという試みは非常にインパクトがあり、教育手法としても大変参考になりました。また、ホロコーストに至る過程の中で起きてくる幾つかの事柄が、他の差別問題にも見られる（関連する）ことも大きな発見でした。大変勉強になりました。また参加したいと思います。</p> <p>●アクティブラーニング形式で、他の参加者の方の意見から気づくことも多かったです。解説もあり、発言のハードルがそれほど高くないので、あまり詳しくなくても気軽に参加できる雰囲気がとても良いと思いました。</p> <p>●話しやすい雰囲気で、かつ質問もしやすい雰囲気でよかった。終了後のフリートークが効果的だった。</p> <p>●zoom に慣れていませんでしたので、問いかけにまごついてしまい申し訳ありませんでした。今まで視聴専門ばかりをしてきましたので、緊張感をもちながらの 2 時間は充実した時間となりました。</p>

3-2-22 読書会『忘却に抵抗するドイツ』著者・岡裕人×大学生

開催日時	2020/8/9(日)20:00 -
内容	2015 年より毎年『忘却に抵抗するドイツ』著者・岡裕人さんをゲストにお迎えして「記憶の文化」をテーマにした会を開催してきた。今年は、大学生との対談というスタイルで実施した。
会場	オンライン zoom ミーティング
講師	岡裕人さん 『忘却に抵抗するドイツ』著者
パネリスト	(大学生)奥川稀理さん、倉林昌弘さん、深田莉映さん、西山花音さん
参加費	1,000 円、学生無料
対象/参加人数	Kokoro 会員を中心に、興味のある方はどなたでも/77 人
参加者アンケートより	<p>●10 代、20 代の参加者が多いのに驚いたとともに、将来に希望がもてるなあと思いました。一番印象に残ったことは、日本では自分の意見(批判意見)を持ち発言する教育がなされていないということ。</p> <p>●この本を読むまではドイツの中だけの話だと思っていましたが、読後は日本の外国人問題や広島・長崎の原爆や福島原発危機の継承にもつながる内容でした。自分に無関係な話だとは思えず、読書会でも自分ごととして何うことができました。ドイツとポーランドという当時は全く正反対のイデオロギーで、歴史事実の解釈の異なる国で教科書対話が実現したというのは人類の希望になる内容でした。</p> <p>●学生の皆さんそれぞれの視点から話を発展させていく形式が興味深かったです。文化的記憶に関して興味を持っていたのですが、ホロコーストの記憶の想起と忘却についてさらに知りたくなりました。本日は 8/9 ということもあり日本では共感によって受け継がれる傾向にある戦争の記憶を今後どう扱っていくべきなのかを考えさせられました。</p> <p>●素晴らしい読書会でした。特に印象に残った点は、石岡さんが仰っていた「ドイツは、ナチの反省を踏まえて、人権尊重・民主主義に向かった。一方日本は、大日本帝国の反省を踏まえて、みんなで一緒に平和希求、という方向に向かった。」というコメントでした。非常に腑に落ちたと同時に、どちらも良い方向性のはずなのに、結果としてなぜ日本は</p>

	<p>過去への向き合いが足りないということになっているのだろうと考えさせられました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●非常に中身の濃い内容であったと思います。4名の大学生の方もそれぞれ明確な問題意識を持ち、かつそれに行動も伴っていて頼もしいなあと思った次第です。 ●ホロコーストを自分事として捉えることが大事で、考えた事を発信する。対話が大事。当たり前を疑う。自分の考えを持つ。という言葉に共鳴しました。 ●濃密な2時間でした。大学生の真摯な態度、高い問題意識に打たれ、一気に熱を帯びた企画になったと思います。オンラインだと70名という大勢の参加が可能になるので、戦後75年という節目の年への関心の高さも感じました。 ●『忘却に抵抗するドイツ』が非常に良書で、現在日本の立場、自分自身の立場を考察する上で非常に有益な本でした。そして学生4名のディスカッションポイントも非常に考えさせられるものでした。そして石岡さんの「戦後日本の平和へ呼びかけ(運動)に対する考察」、私は平和という抽象的な言葉やイデオロギーに動かされていて個々の自分自身と平和との個別的具体的ななかかわりやつながりを欠いて、同時に戦時下の人々の個々の苦しみや悲しみ、場合によっては喜びや生きがいへの同伴を欠いているというように理解させていただきました。 ●学生さんたちが話す言葉一つ一つが自らの体験と結びついていて面白かったです。学生の皆さんのそれぞれの関心に即した課題設定も、とても勉強になるもので、それに対する岡さん、石岡さんのご意見や参加者の方のメッセージも大変参考になりました。皆さんのやり取りから、深めていきたいと思えたことがたくさんありました。私自身、来年から高校の社会科教員になる予定で、歴史教育について考えていることがあったので、同じ世代の同じ課題意識を持った学生がこんなにいるんだということも知ることが出来て、勇気づけられました。
--	--

3-2-23 ホロコーストを教材にしたアクティブラーニング 開催第9回

開催日時	2020/8/22(土)20:00 - 21:45
内容	3-2-1 参照
会場	オンライン zoom ミーティング
講師	石岡史子
参加費	1,000 円、学生無料
対象/参加人数	Kokoro 会員および興味のある方はどなたでも/7名

3-2-24 在米・シカゴ高校生カイヤ・チャンドラーさん講演会 「ホロコーストを生き延びた祖父と救ってくれた人々」

開催日時	2020/8/23(日)10:30 - 12:00
内容	ホロコースト生還者の祖父の体験を孫のカイヤ・チャンドラーさんにご講演いただいた。カイヤさんの祖父モリス・チャンドラーさんはポーランドのナシエルスク出身。ある旅行者が1938年にこの町に立ち寄った際に撮影した16ミリフィルムが数年前に発見され、そこにチャンドラーさんが写っていた。ナチ・ドイツ侵攻の前年までのナシエルスクの人々の幸せな日々を伝える。この貴重な記録映像も上映していただきながら、祖父の体験について講演していただいた。カイヤさん自身の平和と人権をテーマにした活動についても紹介していただき、コロナ禍の差別や平和について考える機会とした。
会場	オンライン zoom ミーティング
ゲスト	カイヤ・チャンドラーさん、高校生、在米・シカゴ
参加費	1,000 円、学生無料
対象/参加人数	Kokoro 会員および興味のある方はどなたでも/50人

参加者アンケート
より

- 私はカイラさんと同じくらいの年齢なのですが、カイラさんの行動力に感動しました。自粛期間などで時間があっても、ダラダラしてしまう癖がついていて積極的に何かをすることがありませんでしたが、カイラさんのように同じ時間でこれだけのことをしている人がいると思うと、自分も頑張ろうと刺激を受けました。
- 1938年の平和な暮らしをしているであろう穏やかな表情の村の人達の写真が印象的でした。翌年には大半の人がホロコーストで亡くなるのは余りにも痛ましいと感じました。差別や偏見を無くすにはどうすればよいか、日々考え自分なりに行動しようと思いました。カイラさんのような若い方達が人種差別の運動に立ち上がった事はとても有意義な事と感心致しました。応援しています。
- 今を生きるカイラさんと14歳だったモリスさんの好きなことや暮らしぶりが紹介されたことで、日常を奪われてしまう事の怖さと平和の喜びの両方とを感じることができました。カイラさんが自分にできることを考えて行動しているところが素晴らしいと思います。また、グレンさんが映像に写っている人々に大切な思い出を渡してあげたいと行動されたことは、尊いことだったと思います。グレンさんの想像力があったからこそ、今、私たちが素晴らしい出逢いの立会人になることができたのです。そして、自分のこととして、私はヘレナさんのように生きているのかを考えさせられました。モリスさんのお元気な姿やユーモアたっぷりのお人柄に触れることができ幸せな時間でした。皆さんのおかげで素晴らしい時間となりました。
- zoom だからこそできる、素晴らしい会でした。参加してよかったです。「ハンナのかばん」もそうですが、いろんな偶然が重なって、思い出でもなく、貴重な記録だけでもなく、多くの人に大切なことを考えたり、感じたりする機会を作ってくれてありがとうございました。モーリさんがずっとお元気でいてくださった事に感謝です。そして、今一度、自分にできることを考えました。
- カイラさんのお話にもあったように現在はコロナ禍で大変な時期であり、さらにアメリカでは人種差別の運動が再興するなど人と人とのつながりが失われつつある現代だと思います。しかし、今日のようにオンラインで海の向こうの人々と平和について対話することができ、コロナ禍であっても人とのつながりを創り出し、平和を考えることができるのだと感じました。
- 平和への願いと意思が世代を超えて受け継がれていることも素晴らしいと思いました。
- グランパがゲッターから逃亡できたことに何かしらポーランドの地下組織の支援があったのか、それとも兄弟の単独行動なのか、お聞きしたいと思いました。
- グローバル化や少子高齢化が進む今、日本でも移民を受け入れる必要はあります。また、難民は絶対に受け入れないといけないと思っています。差別や偏見を乗り越えて、多文化共生を目指すために自分が何ができるのか考えるきっかけになりました。
- モリス、グレンカーツさんなどの参加があり、一層感動深かった。
- 様々な奇跡ともいべき偶然偶然/必然が繋がり、日本に生きる自分にも、ホロコーストを身近に感じる事ができました。発表者のカイラさんも含めて、若い世代の人々がこの企画に参加したことにも希望を感じます。コロナ危機の中で生じた差別や偏見にも、目をそらさず引き受けて行く覚悟を感じました。
- おじいちゃんのできごと、歴史を見つめることからつながって、自分の生きるこの世界を、大人たちをも動かしてよりよくしていこうとする姿勢、行動がすてきでした。自分はすごいことをやっているとか、正義のためにという、気負いや危うさがなく、自分の身の回り、ごく近くから我がこととして、過去から今、未来に向けて、他の人々とつながりながら考えていこうとする姿勢がとてもすてきですばらしかったです。

3-2-25 オンライン歴史さんぽ～ワルシャワ編

開催日時	2020/8/28(金)20:00 – 21:30
内容	メモリーウォークシリーズ第 4 弾はポーランドの首都ワルシャワを取り上げた。第二次世界大戦時の記念碑、世界遺産「リングェルブルム・アーカイブ」などを紹介。
会場	オンライン zoom ミーティング
講師	石岡史子
参加費	1,000 円 応援チケット 2,000 円、学生無料
対象/参加人数	Kokoro 会員および興味のある方はどなたでも/35 人
参加者アンケートより	<p>●実はワルシャワには 10 回以上行ったことがあるのですが、石碑の意味などよく知らないことに気がつかされました。勉強になりました。</p> <p>●バスの中から壁の一部をガイドさんの案内で見ました。ですから、覚えています。あんな中心地に悲しい歴史の跡があるなんて！アウシュビッツに行き歴史を見てきた気分になっていましたが、もっともっと勉強して行けばよかった後悔しています。アウシュビッツに行く前に何冊が勉強してから行きましたが、実際に足を踏み入れると全く私は表面部分しか知らなかったことを痛感しました。帰国してから更に本を読みましたが、そこで出会った本が「ハンナのかばん」でした。ホロコースト教育史料センターに行くことが今年の計画でした。コロナ禍の今、東京に行くことは夢となっていますがそんな時にこの企画を知り飛び付いた次第です。有難いです。これからも色々なシリーズをしていただくと嬉しいです</p> <p>●こんなときだからこそ、遠いワルシャワを感じられて最高でした！</p> <p>●ゲッターでの生活の記録を残そうとして、リングェルブルム博士とその同僚グループの人達は危険を顧みず記録を収集してミルク缶に入れ地面深くに隠した事に、敬服致しました。</p> <p>●ナチスのユダヤ人の迫害については、ざっくりとした知識だけしかなく、地図に照らし合わせて説明頂くと、見えてくるものに深みが増しました。3~4 年前に北の丸公園の近くで勤務していた事があり、その時には千鳥ヶ淵戦没者墓苑、昭和館、靖国神社などが近く、日本で 75 年前に起きた事を俯瞰するように全体像を国という形で見るような思いでしたが、その時の事を思い返しました。特に私もリングェルブルムアーカイブの残された手記には胸の詰まる思いになり、思わず涙ぐみました。戦後まだたった 75 年しか経たない今も尚、紛争はあちこちで続いていますし、目には映らないけれど排他的な感情を持つ人はたくさんいると思います。今回は知っているつもりで、全く知らない事ばかりで、良い学びになりました。親切丁寧な解説をありがとうございました。</p> <p>●写真や資料が豊富で、ふみこさんのガイドも分かりやすく、実際にワルシャワを訪れているような気分を味わえました。2 年前のツアーで訪れた意味がようやく分かったりして、自分としては理解を深めることができました。ピエロギやポーランド料理の紹介なども、良かったです！</p> <p>●ワルシャワのホロコースト場所について知ることができて良かったです。なかなか行くことが出来ない場所や行ったとしてもつい見過してしまうような場所までご案内頂き参考になりました。</p> <p>●映像や写真に加えて、とても深いお話を伺えて、ツアーに行けずとも味わえます</p> <p>●とても楽しく参加させていただきました。ワルシャワに今年の 2 月訪れたため、懐かしい気持ちと同時に、まだ訪れていない場所がたくさんあり、再度訪問したくなりました。また次回も楽しみにしています。</p> <p>●いつか行きたいと思っているポーランドですが、予習ができました。後世に残すためにミルク缶に込めた思いをこちらでも受け取りました。</p>

3-2-26 オンライン歴史さんぽ～プラハ編

開催日時	2020/8/29(土)20:00 – 21:30
内容	メモリーウォークシリーズの第5弾として、チェコ共和国の首都プラハの街の様々な第二次世界大戦およびホロコーストの記念碑を紹介した。ナチ・ドイツ支配下でチェコのユダヤ系住民の約 80,000 人が犠牲になった。子どもたちのモニュメントやチェコの抵抗記念館などを案内。
会場	オンライン zoom ミーティング
講師	Kokoro 代表 石岡史子
参加費	1,000 円、応援チケット 2,000 円、学生無料
対象/参加人数	Kokoro 会員および興味のある方はどなたでも/35 名
参加者アンケートより	<p>●ハイドリヒ暗殺のことを知らなかったのが、暗殺が成功したことを聞いて驚いた。テレジン収容所については、本を読んだことがあった。本を読んだ際にも思ったことだが、多くの子ども達が収容されていた場所であるため、アウシュビッツ強制収容所とはまた違った印象を受け、子どもたちの気持ちがひしひしと伝わってくると思った。</p> <p>●ガイドブックかたてに歩き回るのもいいですが、歴史を知ると更に深く想い深く回ると思います。また行きたくになりました。ユダヤ地区はたまたま行きたい方角が一緒だったので寄り道した程度でしたが、生命の籠った絵があったなんて！素通りしたのが悔やまれます</p> <p>●とても面白かったです。参加する前よりもプラハを訪ねてみたいと思いました。2日連続でありがとうございました。前日にワルシャワでもそうでしたが、ツアーに参加した記憶が蘇り、改めてすごいプログラムの研修ツアーだったことに感謝します。あのツアー以来、ポーランドやチェコへの興味が尽きないので、また行ってみたいと思っています。ふみこさん、Kokoro の皆さん、お疲れ様でした。</p> <p>●質問しようか迷って恥ずかしがって出来なかったのですがとてもアッホームな雰囲気良かったです。また最初音声テストを行なってくださりありがとうございました。zoom は初めてだったのでとても助かりました。貴重な機会をありがとうございました。また参加します。</p> <p>●今までよく知らなかったチェコ共和国のホロコーストについて知ることができて嬉しかったです。</p> <p>●Googleearth に、zoom、なんて便利な世の中でしょう。実際に行くのが一番ですが、こうして各国の歴史をリアルに学べるのも、今だからこそ。ありがたいです。テーマはホロコーストなのに、石岡さんのお話に悲壮感などがなく、それが不思議です</p>

3-2-27 杉原千畝と日本にやってきた難民たち～ドラ・グリーンバーグの物語

開催日時	2020/9/15(火)20:00 – 21:30
内容	第二次世界大戦時に日本を通過して逃げたユダヤ難民のなかで、Kokoro が直接取材をしたドラ・グリーンバーグさんの体験を紹介。1941 年に神戸に滞在中のドラさんとポーランドとリトアニアに残る家族との文通の記録が残っている。ご家族からお借りして、手紙を読みながら、生きぬいた命と失われた命の軌跡をたどる。
会場	オンライン zoom ミーティング
講師	Kokoro 代表 石岡史子
参加者	Kokoro 会員および興味のある方はどなたでも/22 名
参加費	1,000 円 学生無料

参加者アンケートより	<p>●杉原千畝の話は日本で有名ですが、ユダヤ人を助けた人、という点では杉原千畝のみに終始して語られがちだと感じていました。今回改めて学んだことを、さらに自分で深めていきたいと思います。</p> <p>●タイトルが分かりにくい。そこで、冒頭に概要をご説明いただくと理解しやすいと思いました。</p> <p>●大勢のユダヤ人を殺したのも人間であり、救ったのもまた人間。教師である私は、ひとりでも多く救う側の人間を育てていきたいと思う。</p> <p>●いろいろ新しいことも知ることができました。ドラさんの生涯について、日本語で書かれたものはあるでしょうか。石岡さんが生前にお会いして伺った話しも貴重ですので、ぜひ記録に残していただければ。もし既にあればお知らせください。</p> <p>●先日 sempo museum に行ってきました。ドラさんのように杉原千畝に助けられたユダヤ人のことが分かり、とても興味深かったです。劇団銅鑼のお芝居も楽しみです</p> <p>●個々の犠牲者の具体的な話が当時の状況を浮き上がらせ生々しく迫ってくる感じがしました。</p> <p>●杉原千畝さんが助けた人達のその後が解り良かったです。</p>
------------	--

3-2-28 オンライン歴史さんぽ～クラクフ編

2020/9/19(土)	2020/9/19(土)20:00 – 21:30
内容	メモリーウォークシリーズの第 6 弾としてポーランドの古都クラクフを取り上げた。中世の街並みが残る世界遺産の旧市街、旧ユダヤ人街のカジミエシュ地区、ゲッター跡地などを紹介。
会場	オンライン zoom ミーティング
講師	石岡史子
参加費	1,500 円、寄付チケット 2,000 円、学生無料
対象/参加人数	Kokoro 会員および興味のある方はどなたでも/27 名
参加者アンケートより	<p>●クラクフのホロコーストに関する出来事を、地図と合わせて改めて復習することが出来て大変勉強になりました。採掘場のことや強制収容所について知らなかったのもっと調べてみようと思います。</p> <p>●クラクフは有名な都市ですが、外国人からしたら馴染みが薄いと思います。そんな地方都市の歴史を学ぶ機会はなかなかないもの。貴重でした。出来れば、その知識を持って訪れたい。そしたら、見方が変わるはず。ただ、遠いのが残念です。「ゲッターや収容所跡地をこれから公園にする予定」とありましたが、戦後 75 年といいますが、長い歴史からみればついこの前の出来事なんだなあという感じが胸にささりました。でも記憶は薄れてしまう。だからこそ今、学ばなければと思いました。</p> <p>●私は昔からポーランドに歴史的に興味があったので、今回歴史に重点が置かれたオンラインツアーに参加できて非常に楽しかったです。コロナが収まったら絶対にポーランド第二の都市クラクフ行きます。</p> <p>●本当に現地にいるような感覚で、歴史を学べました。準備されている資料や写真、構成が分かりやすく、とても素晴らしいツアーでした。</p> <p>●今回も開催ありがとうございました。この時期に、旅行に実際行った気分になって、非常に楽しかったです！</p> <p>●雪の中で震えながら見学したクラクフが、懐かしく感じられました。ガイドさんのレベルもとても高く、沢山のことを教えていただいたことが、今回のイベントでよく分かりました。石岡さんの豊富な知識や経験、熱い語り口にも毎回脱帽です。</p> <p>●クラクフはユダヤ人にとっても歴史ある街で、今はユダヤ人が少なくなりましたが、ユダヤ人が其処に住んでいたという証が、街の至るところに有る事に感銘を受けました。</p>

3-2-29 オンライン歴史さんぽ～アムステルダム編 開催第3回

2020/9/25	2020/9/25(金)20:00 – 21:30
内容	3-2-13 参照
会場	オンライン zoom ミーティング
参加費	1,500 円 学生無料
対象/参加人数	Kokoro 会員および興味のある方はどなたでも/18 名
参加者アンケートより	<p>●昨年、ポーランドを旅行し、アウシュビッツに行くことが出来ました。唯一の日本人ガイドである中谷さんの案内で収容所内を回ることができました。その際にアンネの話を伺い今回参加した次第です。今日のお話は 1 年前を思い出しながらさまざまな思いを描くことができました。</p> <p>●当時のオランダ人の勇気と、今年の首相の謝罪に感銘を受けた。</p> <p>●ただの観光案内ではなく、アンネまたはホロコーストに関心のある人たちの参加であり、アンネ、ユダヤ民族への思いが詰まったものであったのが良かったと思う</p> <p>●おもしろかったので、次のも申し込んでしまいました。</p> <p>●知っていることも、もちろんありましたが、事実や歴史に自分がどう近づくかに加え、ほかの人たちをどう近づけるかという点で、たくさん学ぶことができました。パワポの文字資料や、画像の使い方も見事でした。アンネのことがよく分かりました！</p> <p>●隠れ家の中をみることができ、興味が湧きました。周辺の建物など、説明してもらったので行きたいです！</p>

3-2-30 オンライン歴史さんぽ～ミュンヘン編

2020/9/26	2020/9/26(土)20:00 – 21:30
内容	ドイツ第三の都市、バイエルン州の州都ミュンヘンに点在する第二次世界大戦の記念碑を紹介。特にナチ党発祥の地であることを記憶する場所、ナチ体制に抵抗した大学生グループ「白バラ」の記念碑を紹介した。
会場	オンライン zoom ミーティング
講師	Kokoro 代表 石岡史子
参加費	1,000 円 応援チケット 2,000 円
対象/参加人数	Kokoro 会員および興味のある方はどなたでも/24 名
参加者アンケートより	<p>●楽しむ、学ぶ、考える、のバランスが絶妙でした！白バラについて、もっと知りたくなりました。</p> <p>●ミュンヘンという街がミュンヘン一揆が起こったナチスの象徴というだけでなく、白バラ運動がミュンヘン大学で起こった反ナチスの象徴という意味をも含む街であったことを初めて知った。俄然ミュンヘンという街に興味を湧いた。</p> <p>●白バラについてもっと知りたかったので、参加しました。以前、白バラの本を読んだ際、なんとも言えない感覚がのこりました。今も残っています。白バラについての様々な意見を聞きたい、話したいと思いました。</p> <p>●ミュンヘンの白バラについて、現地の実際の風景と共に改めて学ぶことが出来て良かったです。また参加させて頂きたいです。ありがとうございました。</p> <p>●ナチス発祥の地、ドイツ人のナチス抵抗運動(白バラ)について、とっても分かりやすいガイドでした。最後にご紹介くださったドキュメントセンターは、とても興味深いです。コロナ危機の現代との関連も考えることができ、とても有意義でした。</p> <p>●いつも楽しみにして見て聞いています。今回はネットのつながりが悪くて最後の30分聞けなくて残念でした。また今度楽しみにしています。</p> <p>●ナチ・ドイツのことはあまり知らなかったし、それに関する資料を目にすることも少ないと思います。ですから興味深いものでした。</p>

3-2-31 ホロコーストを教材にしたアクティブラーニング 開催第 10 回

開催日時	2020/9/27(日)14:00 – 16:00
内容	3-2-1 参照
会場	オンライン zoom ミーティング
講師	石岡史子
参加費	1,500 円
対象/参加人数	教育関係者および興味のある方はどなたでも/6 名
	<p>●いろいろな人と話すことで、ひとりでは気づかないことに気づいたり、触発されて何かを発送できたり、想像できたりと、対話の力を感じた。問いを創るのは、慣れるまでちょっと大変だけれど、後半には、写真を見ながら自然に問いを口にしていくようになった。問いながら考える力を体感できた。</p> <p>●皆さんと意見を出し合えて楽しかったです。質問する力つきたいと思いました。</p> <p>●参加者が少なかったことから、逆にいろいろとお話もできて良かったです。</p>

3-2-32 ドイツ国際支援基金助成事業 | 記憶の文化を育む①

転換期にある記憶の継承～ナチ強制収容所記念館の現場から

開催日時	2020/10/17(土)20:00 – 22:00
経緯	ドイツの公的文化機関ゲーテ・インスティトゥートとドイツ外務省の発案により、コロナ禍で影響を受けている EU 圏外の文化・教育団体を支援する「国際支援基金」が創設された。世界各地から 400 件を超える応募があり、140 件が採択される。日本では当 NPO の事業に 22,740 ユーロ (2,796,301 円) の支援をいただけることになった。戦後 75 年の節目に「記憶の文化を育む」というテーマでオンライン講座を企画し、第一弾として開催。
内容	ベルリン郊外の強制収容所ザクセンハウゼンの記念館でガイドを務める中村美耶さんをお迎えして、ドイツの歴史教育の現場で感じることや、ご自身の研究テーマである収容所内の性暴力とその被害者に対する戦後補償についてご講演いただいた。
会場	オンライン zoom ミーティング
講師	中村美耶さん、ザクセンハウゼン強制収容所記念館ガイド
対象/参加人数	Kokoro 会員および興味のある方はどなたでも/98 名
参加費	1,000 円、学生無料
参加者の感想より	<p>●強制収容所内の性暴力の問題について、今までタブー視されたり、沈黙されてきたことで明らかにされてこなかったと聞きました。ナチ時代の障害者に対する迫害も長い間明らみに出なかったと聞いています。声なき声をどのように聞き取るのか、これはホロコーストに限らず虐げられた弱者の声を聞く作業として、現在の問題にもつながると感じました。</p> <p>●語らねば残らない歴史、語れない記憶というものは難しい問題だと思いました。また、「売春宿」の女性たちのお話で、自分のプライドを認められない人は補償を求められないと中村さんは言っていました。他人の言葉がいかに暴力的で、個人とは繊細であることを感じました。</p> <p>●現地でガイドをされている方の経験を通してドイツの歴史教育観に触れる、という切り口が素晴らしい! 日本の私たちが学ぶべきことだけでなく、世界の流れ、ドイツにおける課題もお話いただき、俯瞰的 (正しい意味で!) な視座を持つことができました。</p> <p>●若い方の参加が多いことは本当に素晴らしいですね。Kokoro さんに感謝です!</p> <p>●後半の収容所内の売春宿の話は日本でも戦地で戦意高揚を落とさないために、慰安所を兵隊の基地に作って居たとの事と重なりました。女性の人権や尊厳を踏みに</p>

じる行為と。その当事者は差別を世間から受ける事とその当時の辛い記憶を呼び覚ます事の抵抗感で公に出来ない思いも解らなくは無いと思いました。

●国境を超えて、ホロコーストの歴史に向き合い、ドイツの人たちとともに考えることを呼びかけるガイドという仕事をされている中村さんのような若い人がいることに感激でした。アウシュビッツで主に日本人をガイドされている中谷剛さんはある意味草分けだと思いますが、中村さんがいま体験し吸収されていることを共有させていただくことで、私たちが次に学ぶことがあるのではないかという予感がします。2時間はあっという間でした。またの機会にぜひこの続きを聞かせていただきたいです。また記憶を語りたくない人の記憶をどう伝えるのかという最後の問いかけは心に残りました。

●随時チャットで質問を受けながら、という構成がとてもスムーズでよかったです。中村さんが「外国人として」ガイドをされる中で、ネイティブではないご自身のドイツ語を子供たちから笑われることがある、目の前で学ぶべき人権や差別の歴史と外国人ガイドである自分への態度のギャップに考えさせられることがある、というエピソードがとても印象に残っています。ドイツはホロコーストの問題をまずドイツの問題として、そして人類普遍のものとして認識しているからこそ、このガイドの多国籍化も進んでいるのだなと感じました。後半の性暴力の歴史は、とても衝撃を受けました。ナチス将校相手ではなく、囚人（特に「ドイツ人」の）向けだったということも...戦後お一人しか訴え出ない、という現状にも闇の深さを感じました。コロナ禍のなかだからこそそのオンライン研修を多く企画していただき、ありがとうございます。例年以上に参加することができており、満足しております。

●ガイドの仕事は「未来の人たちが歴史にアクセスする道筋をつくる立場」という表現に共感しました。性暴力の被害者のうち、声をあげることができたのは、ナチに反抗したことが明確でそのプライドを保つことができた人であるというのは印象的でした。訴えることの正当性があってようやく声を上げることができるという性被害告発の難しさは、残念ながら普遍的なものだと思いました。「連帯できない人の声は簡単にかき消される」という言葉も心にささりました。“沈黙した歴史”にじっと耳を傾けることも忘れないようにしたいと思います。

●収容所での性暴力の話は衝撃でした。利用していたのは、収容されていた男性と聞いて驚くとともに、構造的暴力としてあり得るとも思いました。そして、日本の岐阜県黒川分村開拓団の性接待のことを思い出しました。黒川分村の遺族会では、満州で終戦を迎えた後、現地の襲撃から団員を守ることをソ連兵に依頼。その見返りに女性を性接待に出すことになりました。そのおかげで、団員の生還率は高かったと言われています。戦後1983年差し出された乙女のために地元神社に「乙女の碑」が建立されました。しかし、その記憶は公に語られませんでした。現在、4代目の遺族会会長は戦後生まれ。その方は、乙女の記憶を伝えなくてはならないと、昨年11月、乙女の碑の碑文を完成されました。碑文には、『私たちがどれだけ辛い思いをしたか。私らの犠牲で帰って来られたことを覚えておいてほしい。』と刻まれました。そして、その除幕式では、会長自ら乙女の皆さん（存命の方は出席されていました）に謝罪をされています。とても稀なケースではありますが、私たちにとって希望と勇気を与えられるものでしたので、ご紹介させていただきました。

●「連帯できない人の声は簡単にかき消される」という中村さんのお話に強く胸を打たれました。戦後75年を迎え戦争体験の記憶の継承が喫緊の課題となっていますが、継承すべき歴史とは一体何なのか、改めて考えさせられます。わたし自身「継承する」ということに重きを置いてしまいがちですが、当事者ではないからこそ、継承すべき歴史を選びとっているということに自覚的でありたいと思いました。

●ガイドをされている時の体験談はもちろん、ガイドになるまでの道のりもとても興味深かったです。

3-2-33 ドイツ国際支援基金助成事業 | 記憶の文化を育む①ふりかえり対話

開催日時	2020/10/17(土)22:00 -
内容	中村美耶さんのご講演(3-2-32)のあとで、参加者同士で対話をしながらふりかえる時間を設けた。講師の中村さんにもご参加いただき、さらに質疑応答の時間も設けることができた。
会場	オンライン zoom ミーティング
対象/参加人数	3-2-32 の参加者の中から希望者/20 名

3-2-34 ドイツ国際支援基金助成事業 | 記憶の文化を育む②

学校でデモのやりかた教えちゃう!? ~演劇で「市民」を育むドイツの取り組み

開催日時	2020/10/28(水)20:00 - 22:30	
経緯	3-2-32 参照	
内容	ドイツの連邦政治教育センターのアンネ・パッフエンホルツさんとペトラ・グリュエネさんに、同センターの設立経緯やミッション、三年毎に開催される「政治演劇祭」についてご講演いただいた。政府の機関でありながら、政治的な中立を重んじ、ナチ時代の反省だけでなく、ヘイトスピーチ、経済格差など現代社会の問題解決のために「市民」の育成を目指して、様々な取り組みを展開している。後半は、日本の演劇界を代表するいずみ凜さん、大谷賢治郎さん、田辺素子さんにもコメントをいただいた。この会で触れた、民主主義を演劇で学ぶという方法論は、第5回の朗読劇(3-2-38)の試みに繋がった。	
会場	オンライン zoom ウェビナー	
登壇者	<ul style="list-style-type: none"> ・講師 アンネ・パッフエンホルツさん、連邦政治教育センター(ベルリン) ペトラ・グリュエネさん、連邦政治教育センター(ボン) ・パネリスト いずみ凜さん、脚本家 大谷賢治郎さん、演出家 田辺素子さん、劇団銅鑼制作 	
対象/参加人数	Kokoro 会員および興味のある方はどなたでも/136 名	
参加費	1,000 円、学生・舞台芸術関係者無料 日英逐次通訳つき	
参加者アンケートより	<p>●すばらしい企画でした。演劇が社会を変えていく可能性を感じました。いまこの国は民主主義が壊されているという危機感を感じています。だからこそ、民主主義の担い手である主権者教育は大切だと思います。その核に演劇がなるのかもしれないと本気で思うことができました。日本から登壇された 3 人の方の覚悟も伝わってきました。たくさんの方を巻き込んで、ムーブメントを起こしていただきたいです。そして私たちも、楽しみながら参加したいです。(60 代)</p> <p>●面白かった!特に民主主義にも努力を続けなければいけない!というメッセージは、納得できた。さて私達に何ができるか?(70 代)</p> <p>●民主主義を守り続けることを国全体で真剣に考え、取り組んでいることを知り、感動しました。同時に、日本ではどうしていかなければならないか、どうありたいかを、真剣に考えていきたいと思うきっかけになりました。(30 代)</p> <p>●以前子供が高校生の頃に、社会問題になった事件をもとにした演劇のプロジェクトに参加しました。この度お話を聞いて、改めて理解が深まりました。また、ドイツで育った子供やドイツ人と日本で育った子供と日本人との比較が面白く、腑に落ちる点が多々ありました。(50 代)</p> <p>●ドイツの連邦政治教育センターが国の管轄ではあるけれども政府与党の考えを代</p>	

	<p>弁しなくて良いとのこと。日本での学術会議の任命拒否問題を思い起こしなんて羨ましい！なんてまとも！とため息。日々民主主義を強化してきた賜物なのでしょう。出来ることをしていきたいと思うのと同時にもっと多くの人に知って欲しい内容でした。素敵な企画をありがとうございました。それにしても堂々とデモのやり方を教えちゃうなんて！日本ではなかなか難しいでしょうがどこかに風穴があげられれば良いですね。(60代)</p> <p>●自分の関心とも合致していたこともあり、非常に聞きごたえのある発表だった。登壇者、通訳者ともにとっても分かりやすい話し方だった。(40代)</p> <p>●ドイツの民主主義への取り組み、学校で日本でもやってほしいです。そして常に問い続けることが必要なんですね。演劇はその助けになるでしょう。最後の全員でのフリートークがもう少し長いといいなと思いました。(60代)</p> <p>●ドイツでの長く誠実な歩みに触れて感動しました。演劇祭、素敵ですね。参加してみたいです。ポイテルスバッハ・コンセンサスが学校教育だけでなく、家庭でも社会でも共有され実践されていることは素晴らしいと思いました。ナチの思想から痛手を負った国民が、自らの思想に変化をもたらすために多様な立場の方たちと様々なアプローチを開発してこられたことで今のドイツがあるのだと思いました。ドイツの取り組みに学んで、小さくても地域で活かすことができないだろうかと考えています。ドイツと比べて日本国民の政治への無関心などが取り上げられます。そのような日本でも地道に政治へ働きかけ、平和な社会を作ろうと努力されている方にもっと目を向けてみる必要があると感じました。(50代)</p>
--	--

3-2-35 ドイツ国際支援基金助成事業 | 記憶の文化を育む③

人はなぜ記念碑をつくるのか ~ホロコーストと第二次世界大戦の記憶のカタチと私たちの未来

開催日時	2020/11/1(日)14:00 - 17:00
経緯	3-2-32 参照
内容	東京大学教授の石田勇治さんに、戦後ドイツの歩みを「記憶の文化」の面から、ルポライターの室田元美さんには日本国内の記念碑についてご講演いただき、記念碑の役割について学び考えた。
会場	オンライン Youtube ライブ配信
講師	石田勇治さん、東京大学教授 室田元美さん、ルポライター
対象/参加者	Kokoro 会員を中心に興味のある方はどなたでも/141名
参加費	1,000円、学生無料
参加者アンケートより	<p>●ドイツがどのような道を進んで、戦争責任と向き合ってきたのかがわかりました。ドイツが進ってきた道のりは少なからず、日本の歴史教育に何かヒントを与えてくれているように思えました。日本にも加害の歴史を伝える、記念碑があることを知りました。最後の対話の場で様々な意見が聞けて、歴史教育や記念碑のあり方などを考えるきっかけになりました。ありがとうございました。(10代)</p> <p>●ドイツの戦時強制労働問題については、日朝の強制連行問題を考える上で、参考になりました。また過去の克服が一筋縄でなかったことが、各政権の戦略まで細かく見ていくことで、よくわかりました。今回の内容はせめて2回に分けておろかしたいほどの濃いもので、もう少しお時間が欲しかったように思います。過去の克服が1回、そのあとにドイツの日本の碑の話の回で1回でもよかったかもしれませんね。体験世代がいなくなる中で、益々碑の存在意味は大きくなっていくことでしょう。ドイツの試みを参考にし、日本でも碑を利用したさまざまな取り組みが若い世代も巻き込んで起きてくることを切に願います。毎回、10代20代の参加者が多いとのこと、希望を感じます。(60代)</p> <p>●東京の講座に地方からでも簡単に参加できる仕組みに、改めて感心しております。</p>

	<p>記念碑の有り様について、ドイツと日本、被害と加害、時系列、思い入れ等の違いを認識したشایدです。私たちの未来に繋ぐという共通の理念にコンセンサスを得るのは困難な道のりが伴うと思っていますが、このような講座で歴史を知り知識を深めていくことは大切だと感じました。参加者は学生さんが半数を占め、若い世代に関心が高いということで、未来に希望を持てると確信するしだいです。(50代)</p> <p>●3時間があつというまに過ぎてしまうぐらい充実した内容でした。ドイツ人は法的責任は無くても道義的責任を言うとの事と、解決したとは誰が決めるのか、加害者ではなく被害者が決めるという事をお聞きして心から納得しました。(60代)</p> <p>●ナチスに対して厳格な態度が共通認識となっているドイツでも、そこまでの歴史認識に至るまでには紆余曲折があったことを知り、日本においても参考となる点が大いにあるように感じた。(20代)</p> <p>●非常に勉強になりました。3時間があつというまでした。レジュメなどを頂いたのもよかったです。本当に有難うございました。(20代)</p> <p>●専門家による深い研究と洞察 問題提起は 教育現場に立つものに、あらためて真実な歴史を伝える責任を認識させるものでした。このような企画を感謝します。(50代)</p> <p>●ホロコースト記念碑についてや、その記念碑が建立されるまでの過程を知られたのはよかったです。また、日本にも加害の歴史を伝える記念碑が市民の手によって作れていることやそれに対する抗議や破壊行為があることも。私に何ができるか考え続け、行動したく思います。(20代)</p>
--	---

3-2-36 ドイツ国際支援基金助成事業 | 記憶の文化を育む③ふりかえり対話

開催日時	2020/11/1(日)
内容	3-2-35のあとで、参加者同士で対話をしながらふりかえる時間を設けた。
会場	オンライン zoom ミーティング
対象/参加人数	3-2-35の参加者の中から希望者/30名

3-2-37 ドイツ国際支援基金助成事業 | 記憶の文化を育む④

オンライン歴史さんぽ～フランクフルト編

開催日時	2020/11/21(土)20:00 – 22:00
経緯	3-2-32 参照
内容	<p>在独 30 年の歴史家・教育者であり『忘却に抵抗するドイツ』ご著者の岡裕人さんにフランクフルトの街中に点在するナチ時代、ホロコーストの様々な記念碑についてご講演いただいた。</p> <p>【プログラム】</p> <p>①アンネ・フランクゆかりの地</p> <p>②80年代に発掘された遺跡</p> <p>③世界遺産になった「裁判」</p> <p>④欧州中央銀行の地下の秘密</p>
会場	オンライン zoom ウェビナー
講師	岡裕人さん、『忘却に抵抗するドイツ』著者、フランクフルト在住
対象/参加人数	Kokoro 会員および興味のある方はどなたでも/82名
参加者アンケートより	<p>●ドイツの「記録」に対する緻密さに驚くと共に、過ちと正面から向き合う姿勢に感銘を受けました。日本に欠けている部分ですね。zoom で自宅から参加する事ができ子供と楽しむ事ができました。(40代)</p> <p>●もっとこの街について知りたく思い参加させていただきました。観光的な部分は</p>

	<p>知っていても歴史的な部分には疎く、初めて知ることばかりで非常に有意義な時間でした。お話しいただいた内容を元に、もう一度市内を歩いてみたいと思いました。貴重なお話を本当にありがとうございました。(30代)</p> <p>●フランクフルトには行ったことがないので、旅行の気分も味わいながら歴史の勉強をさせていただきました。広場の名前が変えられた歴史も教訓として残そうとするドイツの人びと。なぜ日本でそれができないのかと悔しくさえあります。岡さんのガイドはわかりやすく臨場感たっぷりでした。ぜひコロナが終わったら本当の現地ガイドをお願いしたいです。(60代)</p> <p>●歴史的背景などを説明いただきながら、訪問したことのない現地を紹介いただけてとても興味深く楽しかったです。ありがとうございました。(50代)</p> <p>●フランクフルトは馴染みのある町だと思っていましたが、知らずにいたことも多く、大変に実りの多い夜でした。真新しい欧州中央銀行の地下に、あのような過去が眠っていたとは驚きです。貴重なお話を伺えて、感謝しています。(50代)</p> <p>●フランクフルト・アウシュビッツ裁判の記録が世界遺産になり、HP上で全世界に公開されていることなど、初めて知ることも多くありました。記憶の継承のための模索が続いているドイツのことを知れば知るほど、日本とのこの違いは何なのかと思わざるを得ません。一人でも多くの人たちが知ること、未来への勇気とヒントをもらえたらと心より願っています。(60代)</p>
--	---

3-2-38 ドイツ国際支援基金助成事業 | 記憶の文化を育む⑤

朗読劇『追究 — アウシュヴィッツの歌』より ペーター・ヴァイス作 岩淵達治訳

開催日時	2020/11/29(日)13:00 – 14:00
経緯	3-2-32 参照
内容	1963年、フランクフルト。戦後ドイツの歴史認識を変えたとも言われる「アウシュヴィッツ裁判」。敗戦から十数年がたち、経済も持ち直してきた西ドイツで、「過去を暴くな」という声もあがる中、裁判は始まった。自らの手で、自分たちの国の犯罪に向き合い裁こうとしてきたドイツ。戦後75年の2020年、20代の役者たちがアウシュヴィッツ裁判で語られた言葉と向き合い朗読劇に取り組んだ。
会場	オンライン Youtube ライブ配信
キャスト	池田紫陽、石川湖太郎、遠藤広太、遠藤真結子、小黒沙耶、西村優子、松本征樹、山岡彰斗
スタッフ	構成 いずみ凜、演出 大谷賢治郎、制作協力 田辺素子、制作 石岡史子
対象/参加人数	Kokoro 会員および興味のある方はどなたでも/151名
参加費	無料、寄付チケット 1,000円
参加者アンケートより	<p>●政治を自分に関係ないこととして捉えがちな自分達も、他人事ではないなと感じました。(20代)</p> <p>●アフタートークで演者の方々のこの劇への想いを聞いたことまで含めて、とても面白かったです。劇中で役がどんどん変わるせいで、演者が役になりきってしまうのではなく、様々な立場に感情移入しながら劇について考えたというコメントが印象的でした。(20代)</p> <p>●被告と証人と判事などの役が入れ替わるのは原作の指示か、あるいは演出者の考えかわかりませんが、誰もがこのような恐るべき犯罪を犯しうるということを象徴するように思いました。被告を責める検事も、状況が変われば同じことをしたのかもしれない、そう思うとこれは他人事ではなく、見ている私達も含めた人間の在り方を問う劇のように思いました。(60代)</p> <p>●被告が言っていた「知らなかった」というような言葉は、自分たちも発したこと</p>

	<p>があるような言葉ですよね、というようなことをおっしゃられていて、ハッとしました。私はこの時代の話を読んだり聞いたりするとき、ナチ側の人間の話になると、自分がこの環境に置かれたとき、こうならない自信がないと思うのですが、今生きているこの時代でも、そういう可能性はあるのだということに気付かされました。常に考えることをやめてはいけないと思います。(20代)</p> <p>●「自分の責任ではない」「言われた通りにやっただけ」「自分で考えることを放棄して」現代の社会に置き換えた時、果たして自分は違うのか？と辛くなりました。大小様々な社会問題がありますが、私の世代は「自分の大切にしている世界」が侵されないかぎり、気持ちが動いても行動は起こしません。(勿論自分も含めて)(20代)</p> <p>●今日の配信をみて、感じたこと、今の政治のこと、本当はこうなった方がいい社会になると思いつつも「きっと誰かがやってくれる」「私が今の生活を犠牲にしてまで動く必要はない」と、明日からも今日までと変わらない毎日を過ごす。いつまで、ぬるま湯のような幸せが続くのかなんてわからないのに。あくまで〈傍観者〉でいる自分も、時代が違えば立派な被告人なのではないかと、とても怖くなりました。ここまで気付いていても、まだ、何も行動を起こせないのです。(20代)</p> <p>●全く過去の話とは思えなかった。そういう社会、団体に属しているのは自分かもしれないという危機感が増し、沈黙を強いることは自由や人権、民主主義を簡単に破壊するんだなと感じた。(30代)</p> <p>●チャレンジあふれる公演・イベントに参加させていただき有難うございました。劇場で同じ空間を共有し感じるものとは違うのですが、法廷を傍聴しているような感覚で画面越しであることが、かえって効果的でおもしろい作品に仕上がっていたように感じました。大谷賢治郎さんの演出、とてもよかったです。一人で受け止めるにはあまりにも重いものがありましたが、アフタートークでは役者さんたちのこの作品への取り組みや想い等を聞くことで、自分の中でもようやく反芻できたように思います。先日うかがったドイツ各地で行われている「政治演劇フェスティバル」のようなものを日本で開催するときには、今回のような作品の上演&アフタートークをやれたらいいですね。そういう意味でも、未来につながる実験になったのではないのでしょうか。コロナが落ち着いたら、全国各地でこの作品が上演され、アフターには参加者がリアルに語り合えたらいいですね。改めて、言葉の力、演劇の可能性を感じました。演劇で「市民」を育む、次の一步を。(60代)</p>
映像記録制作	<p>映像①「あなたにとって歴史を知るって、どういうことですか 朗読劇に取り組んだ20代の役者たち8名に「歴史」について今回考えたことを一言ずつ語ってもらい、映像記録を制作し、YouTubeで公開した。</p> <p>【視聴用リンク】https://youtu.be/G2_goAeytac</p>

3-2-39 ドイツ国際支援基金助成事業 | 記憶の文化を育む⑤ふりかえり対話

開催日時	2020/11/29(日)14:30 – 16:30
内容	3-2-38の上演後に、キャストとスタッフによるアフタートークを実施した。参加者を交えた質疑応答も行った。
会場	オンライン zoom ミーティング
パネリスト	3-2-38のキャストおよびスタッフ
参加者	50名

3-2-40 ドイツ国際支援基金助成事業 | 記憶の文化を育む⑥

21 世紀における歴史の継承と挑戦 THE LEADS ASIA 共催

開催日時	2020/12/4(金)20:00 – 22:00	
経緯	3-2-32 参照	
内容	第 6 回は THE LEADS ASIA(TLA)との共催で、共同設立者の佐々木彩乃さんと神山かおりさんの司会進行で実施。TLA は建設的な対話の場づくりを目指してアジアの若者たちが設立した NGO。ゲストには、ナチズム「運動発祥の地」という歴史を持つミュンヘンのナチドキュメントセンターからミリアム・ザドフ館長を迎えて、同センターの紹介および現代アートを取り入れた企画展についてご講演いただきました。	
会場	オンライン zoom ウェビナー	
講師	ミリアム・ザドフさん、ミュンヘンナチドキュメントセンター館長、ドイツ	
対象/参加人数	Kokoro 会員および TLA メンバー、一般参加者、200 名	
参加費	無料	日英逐次通訳
参加者アンケートより	<p>●アートやモニュメントを絡ませながら多角的な視点をもって歴史保存を行なっている。伝え方が大事であると思つづく思った。(20 代)</p> <p>●質問タイムがとても充実していた。今までの私は、日本とドイツを敗戦国として一括りにしがちでした。しかしこの講演を聞いて、ドイツ国内での取り組みや認識を詳しく知ることができ、日本はどうなんだろう、足りないところは何だろうと考える足掛かりになりました。(20 代)</p> <p>●大学で美学美術史や博物館学を学んできましたが、ミュージアムが主体的に社会にどう良い影響を与えられるのか、具体的に把握することはなかなか難しいものがあります。ですが、今回のイベントでミュージアムの役割は必ずあることを再確認できて自信になりました。また、自分のなかで現在のミュージアムの課題についても見つけることができました。とても面白かったです。(20 代)</p> <p>●歴史教育の文脈だと日本ではよくドイツが「優等生」として紹介されることが多いので、実際にドイツ人の博物館の館長から話を聞ける機会は貴重だった。(20 代)</p> <p>●日本のように、過去を展示してみてもらうのではなく、それを見た現代の人々がどのように感じたかをアートとして表現していること、そしてそれを見ていただいていることに、日本とは違う発想が得られました。(50 代)</p> <p>●(講師の話が)とても客観的だったのが、印象的でした。このテーマでは、なかなか経験できないことのような気がします。それは、対象がアジアの若い世代だということにも、関連していたように思います。また(講師)自身が、アジアの若い方たちに向けて話していることに喜びを感じていることが、言葉から伝わってきました。THE LEADS ASIA のメンバーの方たちも、ご自分の意見をはっきり持ちながら、(講師の)お話を傾聴する姿が印象的でした。そういう意味でも、とてもよいコラボレーションだったと思います。通訳の方は、ほんとうにすばりしかったです。ホロコースト教育資料センターの活動は、今年の 1 月にゲーテ・インスティトゥート東京で行われた「アウシュヴィッツ解放 75 周年」の催しで、初めて知りました。今後の皆様のご活動を応援いたします。(60 代)</p>	
映像記録制作	<p>映像②「あなたにとって歴史を知るって、どういうことですか 共催団体の THE LEADS ASIA 共同代表設立者の神山かおりさんと佐々木彩乃さんに、事業開催後の感想や、歴史を知ることについて、また今後の TLA の展望などを語っていただき、映像記録を制作して、YouTube で公開した。</p> <p>【視聴用リンク】https://youtu.be/V8Hqiy8kofQ</p>	

3-2-41 ドイツ国際支援基金助成事業 | 記憶の文化を育む⑥ふりかえり対話

開催日時	2020/12/4(金)22:00 - 23:00
会場	オンライン zoom ミーティング
司会進行	神山かおりさん、佐々木彩乃さん、THE LEADS ASIA 共同設立者
参加者	一般参加者、50名

3-2-42 ドイツ国際支援基金助成事業 | 記憶の文化を育む⑦最終回

記憶 — 共に生きる未来のために～ドイツ人にとっての「被害」の語りから考える

開催日時	2020/12/26(土)20:00 - 22:00
内容	第二次大戦末期、ドイツ東部や東欧の地域から、そこに暮らすドイツ系住民が強制的に移住させられた。その中で約 200 万人のドイツ人が死亡した。最終回はこの「追放」の歴史について東京大学准教授の川喜田敦子さんにご講演いただいた。自国の「加害」に向き合ってきたドイツで、「被害」はどのように語られてきたのか、現在の難民問題等とどのように位置づけられているのか解説していただいた。
会場	オンライン zoom ウェビナー
講師	川喜田敦子さん、東京大学准教授
ゲスト	三沢亜紀さん、満蒙開拓平和記念館事務局長 フックス真理子さん
参加者	Kokoro 会員および興味のある方はどなたでも/109名
参加費	1,000円 学生無料
参加者アンケートより	<ul style="list-style-type: none"> ●大変分かりやすく勉強になりました。「記憶の文化を育む」オンライン講座シリーズで、いろんな側面からドイツの過去の記憶との対話を学ぶことができました。これからも続けてください。(50代) ●パネリストが途中から増えたり減ったり、参加者がさまざまな国に住んでいたり、オンラインならではの素晴らしい講演でした。背景知識が希薄でも理解できるような、わかりやすいご説明で、とても勉強になりました。(20代) ●追放、移住というのが長いスパンに渡っていることのご指摘。また、ユダヤ人の移住計画からのホロコースト、ということを知りました。(40代) ●貴重なお話をオンラインで聴けるのは、とても良い経験でした。今、このような時代だからこそ、歴史について改めて問い直し、未来を考えるというのはとても重要なことだと思いました。(20代) ●ドイツの歴史というと、まず加害としての戦争責任を考えがちですが、「追放」という被害の歴史に焦点を当てたお話に大変興味を持ちました。また独一波の共通歴史教科書の取り組みについても、実際に地図や教科書のコメントを紹介していただき、とても分かりやすかったです。(50代) ●歴史学の実証研究の成果に圧倒されました。「追放」のなかで性被害にあった女性の問題などについても、お聞きしたいです。満蒙開拓平和記念館が招待された「追放」の経験者の方のお話、交流の様子などもおうかがいできたことも大変興味深かったです。いろいろな活動をされている方達と繋がっていらっしゃる石岡さんがコーディネートされたからならではですね。「記憶の文化を育む」7回すべてに参加させていただきましたが、どれも示唆に富んでいて、大変勉強になりました。毎回参加される若い人たちが増えてきているようで、それも大きな希望ですね。ドイツ政府の支援はこれで終わるのかもしれませんが、今後も回数を減らしてでも、オンライン講座を続けていただけたら有難いです。大きな拍手を送らせていただきます。(60代) ●『追放』について、日本ではあまり知られていません。ドイツがそれを現在の問題としてとらえかえしているの知り感動しました。満蒙開拓記念館に最近訪ねたばか

	<p>りということもあり、その問題を私たちがどう考えるのかということも併せて考えさせられました。(60代)</p> <p>●ドイツ・ポーランドの歴史教科書対話の中で問題だったのはドイツ側の被害だったというのはなるほどと思いました。同時にポーランド側はどう加害に向き合うのかを突き付けられたということでもあるのです。1時間があったという間でした。歴史にどう向き合うか、考えさせられる貴重な時間でした。(50代)</p> <p>●記憶をつなげていくためのツールとしての教科書を活用する教員の力量をどう高めていくかも考えていきたいと思います。(30代)</p> <p>●オンラインの講座は、途中で集中力が途切れることが多く、いつも1.5ページほどしかノートを取らないのですが、今回はとても講演内容が分かりやすく終始手を動かして、4ページ分もノートを取りました。(20代)</p> <p>●国際教科書対話の背景を知り、ヨーロッパの長い歴史の中での「追放」の捉え方に歴史を学ぶ意味を思いました。特にドイツ＝フランス、ドイツ＝ポーランドの比較に加害を語ることの難しさを再認識しました。大事なことから。未来を描くために歴史を学ぶ。私たちが先の大戦により失くしたものは大きかったと思いますが、そこから学ぶこともたくさんあると気づきます。アジアの歴史も長い流れの中で捉えていくことで私なりの未来を描くことができるだろうと感じました。そして、「追放」といっても個人個人の背景や文脈が違うという点に、「わかったつもりにならない」で当事者の声に耳を傾けつつ、構造的に何があったかを知ることを怠ってはならないと肝に銘じました。等しく、現在起きている難民の問題にも置き換えられると。現代の平和学では、「平和」とは単なる「戦争の不存在」ではなく、「暴力の不存在」を定義し、「暴力」とは「人間能力の全面開花を阻害する原因」(飢餓・貧困・社会的差別・人権抑圧・環境破壊・医療や教育や福祉の遅れなど)を意味していると聞きます。悲しい出来事はなくならないけれど、各国、各時代の歴史を学ぶことで平和な社会をつくるために奔走し抗ってきた方たちのことも知ることができ、私は勇気と希望を受け取ることができました。そして、私たち一人ひとりにできることは、まだまだたくさんあることにも気づかされました。今回の「記憶の文化を育む」シリーズから多様な手掛かりを与えていただきました。助成金の申請、企画や準備、運営にはたくさんのご苦労があったかと思います。このような機会をつくっていただきことに心から感謝を申し上げます。そしてこれからも学ばせていただきたいと思います。新しい年がスタッフ皆様にとりましてよき年になりますように。(50代)</p>
映像記録制作	<p>映像③「あなたにとって歴史を知って、どういうことですか」</p> <p>8/9 開催の読書会(3-2-22)に学生パネリストとして登壇し、「記憶の文化を育む」シリーズも聴講してくれた大学生3名、奥川稀理さん、西山花音さん、深田莉映さんは、2021年夏に有志と共に期間限定のピースミュージアム(仮名)の企画を始めている。本事業への参加の感想や歴史を知ることについて語っていただき、映像記録を制作して、YouTubeで公開した。</p> <p>【視聴用リンク】 https://youtu.be/V8Hqiy8kofQ</p>

3-2-43 ホロコースト国際デー2021

南アフリカのホロコースト教育～「シンドラのリスト」生還者二世の挑戦

開催日時	2020/1/27(水)19:30 - 21:30
経緯	国連はアウシュヴィッツが解放された1月27日を「ホロコースト犠牲者を想起する国際デー」と定め、加盟国に対して、国や民族、信仰の違いを超えて、この歴史を教育の場で取り上げることがをよびかけている(2005年国連総会決議)。2015年より毎年Kokoroでも、この時期に歴史を学び考えるイベ

	ントを開催している。2021 年は開催第 7 回目として計画した。	
内容	<p>南アフリカでは、2005 年からホロコースト史の授業が高校の必修科目になっている。ヨハネスブルクホロコーストジェノサイドセンターの館長タリ・ネイツさんをゲスト講師に迎え、南アフリカにおけるホロコースト教育について、またネイツさんご自身の父と叔父がオスカー・シンドラーに助けられたという家族の体験についてご講演いただいた。</p> <p>【プログラム】</p> <p>1. 開会メッセージ ヤッフア・ベンアリ大使、イスラエル大使館 イナ・レーペル大使、ドイツ連邦共和国大使館 バヴェウ・ミレフスキ大使、ポーランド共和国大使館(録画メッセージ)</p> <p>2. ゲスト講演：タリ・ネイツ館長 南アフリカのホロコースト教育～「シンドラーのリスト」生還者二世の挑戦</p> <p>3. 質疑応答</p>	
ゲスト	タリ・ネイツさん、ヨハネスブルクホロコーストジェノサイドセンター館長	
会場	オンライン zoom ウェビナー	
対象/参加人数	Kokoro 会員、興味のある方はどなたでも/139 名	
参加費	無料、寄付チケット 1,000 円	日英同時通訳つき
後援	イスラエル大使館、ドイツ連邦共和国大使館、ポーランド共和国大使館 国連ホロコーストと国連アウトリーチプログラム、ユネスコ、国連広報センター	
参加者アンケートより	<p>●日本にいて南アフリカでのホロコースト教育はこれまで聞いたことがなく、全てが新鮮であった。ウェブ形式だが、登壇者の生き生きとしており、伝えたいという思いが非常に伝わってきた。</p> <p>●どの国にも触れられたくない過去があるし、それとどう取り組んでいくのが難しい問題だ。また過去をどこまで遡るべきなのかについても難しいと思った。でも、ネイツさんの、難しくても「決してあきらめてはいけない」という言葉が心に響いた。</p> <p>●実際にホロコーストが起こった場所ではない国の、ホロコースト教育や考え方を知ることができて大変興味深い時間でした。過去の出来事を比べるのではなく、つながりを意識するという考え方が、一見当たり前そうに聞こえるが、実際にそれを意識するのは、難しいことなのかな、と思いました。私個人の考えですが、人間は政治や世論に煽られると、簡単に隣人を裏切ってしまうのではないかと思います。この考えが正しいか分かりませんが、仮に正しいとすると、過去の負の記憶同士の繋がりを意識することは、非常に大切ではないかと思います。悲しい出来事をつなぐりを意識することで、人間の悪い面の習性も意識できると思います。</p> <p>●ホロコーストやジェノサイドと聞くと、ついつい遠い国の話(=他人事)を思ってしまうがちですが、見えていないだけで、わたしたちの身近にも似たような出来事は残念ながら存在していると思います。お互いを尊重し、助け合う。そんな優しい世界が広がっていくように、暗い過去にもしっかりと目を向けて、同じ過ちを繰り返さないように次世代に繋げていくことが大切だと思いました。</p> <p>●ジェノサイドは白黒でなく時間をかけて向き合っていく問題だという点がとても腑に落ちました。ホロコーストの歴史に足を踏み入れると、内面にのしかかり、抜け出せない感覚がありますから。これからも時間をかけてじっくり学び続けようと思います。</p> <p>●ホロコースト・メモリアルデイにとっても有意義な時間をいただきました。石岡先生のやわらかでエネルギッシュな活動に、とても感銘を受けると同時に、タリ・ネイツ先生の個人史を踏まえた力強いメッセージに、改めて「繰り返さない」為に考え日々意識することの大切さを実感しました。</p> <p>●興味深い話ばかりで時間がすぎるのがあつと言うまででした。2世で博物館を運営されている方のお話ということで有意義なお話でした。今後、どうしたら同じ過ちが起きないように私たちがアクションできるのか、そこまで議論できたら良かったと</p>	

	<p>思いました。</p> <p>●各地からの中継。まさに zoom の威力発揮という魅力ある講演会でした。コロナ禍の中、若者教育の一環としても是非、今後も利用させていただければと思います。</p> <p>●南アフリカでなぜホロコースト教育が行われているのか、大変興味がありました。館長のタリ・ネイツさんのお話は、その疑問に十分にこたえてくださるものでした。講演会全体を通し、ルワンダの大虐殺、アパルトヘイト、そして関東大震災の朝鮮人虐殺・・・ホロコーストだけでなく、世界各国で起きたジェノサイドを、人類の負の歴史として改めて実感することができました。人間のつくる社会で起きる普遍的な問題として、世界的な視野で、この問題をとらえることの意義にも気づかせてもらいました。石岡さんがこれまでに作られてきた国際関名ネットワークがあればこそ実現した今回のイベントだったと思います。世界に眼を開かせていただき心より感謝申し上げます。</p> <p>●ネイツさんの熱意とバイタリティにとっても感動しました。ホロコーストと南アのジェノサイド、負の遺産として私たちが考えていかねばならない問題について、若い世代への継承も含めて、積極的に活動されているのが素晴らしいです。</p> <p>●国際ホロコーストデイのイベントとして、ホロコースト・サバイバーの 2 世にあたるネイツさんのご家族にまつわる歴史、そして南アで起きたジェノサイドと合わせてホロコーストを考えるという、スケールの大きな視点に大変興味を持ちました。ネイツさんの情熱的な活動内容、語り口も素晴らしいと思いました。</p>
--	--

3-2-44 ホロコースト国際デー2021 高校生ワークショップ

開催日時	2021/1/30(土)19:00 – 21:00
経緯	前年に引き続き、学校の枠を超えて高校生同士で学び合う機会をつくる
会場	オンライン zoom ミーティング
参加者	高校生 32 名、引率の先生、大学生ファシリテーター12 名
参加費	無料
プログラム	<ul style="list-style-type: none"> ・ 問いづくりワークショップ ・ ドキュメンタリー上映 ・ 国連広報センター 佐藤桃子さんより国連事務総長ビデオメッセージ紹介
参加者アンケートより	<p>●高校生になってもう一度歴史を振り返ると、昔とは少し違った感想を持つようになっていて自分でも驚いた。これは、ワークショップの前半に行った、質問作りやそれに対する変換が頭で働いて、主体的にアクティビティに参加するとともに、歴史にも自分からどうしてなのか、と理由や原因に疑問を持てるようになったからだと考えた。また、普段は中々体験することのない、全国各地からの高校生やファシリテーターの大学生の方とホロコーストについてディスカッションを行えたことは私にとって大きな経験となった。</p> <p>●写真を見ながら、たくさんの質問を考えるという工程が面白かったです。質問を考えることがどのような意味を持つのか、始めはよく分からなかったけれど、みんなと質問を共有することで、色々な観点から写真を見ることができました。そのため写真から読み取れる事実だけでなく、なぜ差別は起きてしまうのか、私たちに何ができるのか、この写真の人は何を思っていたのかなど、本質的なことを考えられたと思う。</p> <p>●自分とは違う視点から物事を見てる人がいたり、違う言い方で上手に発表をしたい人がいて刺激を受けました。私はホロコーストについて中学、高校と勉強したことがあったのですが、南アフリカのビデオを見て衝撃を受けました。その人が持っている性的指向、宗教、容貌というその人自身のアイデンティティによって殺されることの恐ろしさを感じました。また、このパンデミックで再び世界中に差別が生まれています。ある特定の人達に自分の苦しみをぶつけるということが再燃しています。また</p>

ジェノサイドが発生することにならないか心配です。ですが世界のことなんて自分には変えられないではなく自分の決断で変えていける、変えることが私たちの義務であることを理解し、過去を学び同じことを繰り返さないことを今回学びました。国連の方がおっしゃっていた「これは本当なの？なぜ？」「この人の気持ちは？」を常に考えることを忘れずにこれから過ごしたいです。自分の決断で世界が良くなるようにもっと勉強します。

●オンラインという形だったからこそ普段はなかなか話せない距離にいる学生達と意見を交換することが出来てとても楽しかったです。ホロコーストから現代に繋がる問題点も考えることができ、さらに深い学びにつながりました。

●全てが新鮮な体験だったので、時間が経つのがあっという間でした。

●差別からジェノサイドが始まること、今もその可能性が十分にあることを初めて知りました。佐藤さんが言われたように、自分が何をすべきか、何をしないべきかを考えて行動していきたいと思います。また、「知りたい」という気持ちを大切に今後もこのような活動に積極的に参加してみようと思います。

●とても有意義な時間になりました。問い立ても普段はしないような形で頭で色々考え、その後にホロコーストに関する動画を見たことでさらに考えを深めることが出来ました。

●現代にも根強く残る差別をゼロにするのは難しいかもしれないけれど、限りなくゼロに近づけるためにもまずは歴史から学び、正しい知識を基に実際に行動に移せるようにしていきたいと感じました。"

●対面でディスカッションしているような有意義なものとなりました。今回学んだことを自分の中に収めておくだけでなく、まずは身近なところからそして SNS などを通して将来的には世界へ発信していこうと決めました。2時間と言う短い時間ではありましたが、学びが多く、本当に参加して良かったと感じています。また、今回参加していた同世代の高校生たちはどの方も平和実現について意識を高く持っていて、私にとってとても勉強になったし刺激をもらいました。今回私たちがこのワークショップに参加したように、まずは自分で世界情勢について知ろうとする意識が大切だと思います。行動に移すことで平和に一歩近づくと感じます。だから私はこれからも積極的に学びそして行動にうつそうと改めて感じました。

●学校では自分の意見を言える授業や機会は無いので、今回のような同じ県だけではなく日本全国の高校生や大学生、大人の方と意見を出し合えてとてもいい経験になりました。

●全てが新鮮な体験だったので、時間が経つのがあっという間でした。

●ホロコーストについて学ぶものというイメージで参加しましたが実際参加してみてもかなり参加型のもが多く、とても有意義な時間になりました。問い立ても普段はしないような形で頭で色々考え、その後にホロコーストに関する動画を見たことでさらに考えを深めることが出来ました。

●差別が大量虐殺に繋がったということが理解できた。また現在コロナの影響で差別される人が増えているので、悲惨な歴史を繰り返さないためにホロコーストや差別がもたらす問題などを知り、広めていきたいと思った。

●たくさんの刺激も受けました！次の機会もぜひ参加したいです。

3-2-45 問いづくり(QFT)ワークショップ「アウシュビッツからの問い」開催第1回目

開催日時	2021/2/26(金)20:00 - 22:30
内容	<p>4/15より継続して計12回開催してきたアクティブラーニングに、問いづくり(QFT、Question Formulation Technique)という手法を追加して新たにプログラムを開発して実施した。ホロコーストの歴史を切り取った1枚の写真を教材にして、①質問をつくる ②質問を分類する ③質問を変換する ④質問を選ぶという4つのプロセスを通して、発散思考、収束思考、メタ認知思考という3つの思考力を育むことをねらいとしている。</p> <p>(参考図書”Make Just One Change: Teach Students to Ask Their Own Questions” Dan Rothstein 他著、『たった一つを変えるだけークラスも教師も自立する「質問づくり」』ダン・ロスステイン他著、新評論刊)</p>
会場	オンライン zoom ミーティング
講師	石岡史子
参加費	1,500円
対象/参加人数	教育関係者、興味のある方はどなたでも/25名
参加者アンケートより	<p>●とてもおもしろかった。先生たちとするというのなかなかない経験だと思った。友達と一緒にやってみたいと思う。</p> <p>●QFTを実際に体験できたこと、これに尽きます。本を読むこと、体験することのふたつには大きな壁があり、普段はその壁を越えて体験するまでには至りません。その意味で非常に有意義なワークショップでした。映像資料に関しても、その前にさまざまな疑問を出すことで自分の中に「下地」ができていたからこそ、集中して視聴することができました。毎度、唯一無二のセミナーを提供いただき感謝しています。</p> <p>●知識は全くなかったのですが、丁寧な解説のおかげで学びが深まりました。参加のきっかけが質問づくりについて学びたいということでしたので、参加者の方々と実践的に質問づくりを体験でき、非常に充実した時間でした！</p> <p>●自分が行う研修でも問いづくりを取り入れたことがあるのですが、もっとうまくやりたいと思い参加しました。おっしゃる通り、1回ではよい気付きが生まれにくい気がしました。次はどんなところに気を付ければいいかがいくつかわかった点で大変有意義でした。</p> <p>●主体的になれたことで、教育においてホロコーストをどのように次世代に伝えるか、人間の本質、歴史等をどのように考えてもらうか、考えるよいきっかけになりました。</p> <p>●グループによって重要だと思う問いの選び方が全然違っていたのが面白かったです。問いは学習の重要な要素だと思います。ナチスはある意味問いと答えの作り方に長けていたのでしょう。それに対して、社会全体が早い段階でもっと問いを投げかけられていたら、今にも繋がる課題です。</p> <p>●参加2回目です。zoom講座になってから参加しやすくなり、ありがたいです。今回は子どもたちにどう身近に感じてもらうのかという私自身の課題に対し、手法のひとつが体験できて、とてもよかったです。</p> <p>●一枚の写真の意味その背景にある思想や考えなど様々な問いを模索し共有して考察することができた貴重な機会でした。(中略)既習知識がないほうが自由に問いに対して考えることができ、戦争体験がない人(私もそうですが)、平和学習に興味のない人、年代を問わずに参加の可能性を開いたのではないかと感じました。</p> <p>●丁寧な解説のおかげで学びが深まりました。参加のきっかけが質問づくりについて学びたいということでしたので、参加者の方々と実践的に質問づくりを体験でき、非常に充実した時間でした！</p> <p>●問いの立て方、整理整頓の仕方を順序だててできたので、わかりやすかった。また、題材もとても良かった。機会があれば、ホロコーストやアウシュビッツ、アイヒマンやハンナアーレントについても哲学的観点から学びたいです。</p>

3-2-46 問いづくり(QFT)ワークショップ「アウシュヴィッツからの問い」開催第2回目

2021/2/27	2021/2/27(土)20:00 - 22:30
内容	3-2-45 参照
会場	オンライン zoom ミーティング
講師	石岡史子
参加費	1,500 円
対象/参加人数	英語科の教育関係者、興味のある方はどなたでも/6名

3-2-47 問いづくり(QFT)ワークショップ「アウシュヴィッツからの問い」開催第3回目

開催日時	2021/3/19(金)20:00 - 22:30
内容	3-2-45 参照
会場	オンライン zoom ミーティング
講師	石岡史子
参加費	1,500 円
対象/参加人数	教育関係者/21名
参加者アンケートより	<p>●問いを作る、ということに少しずつ慣れ始めました。</p> <p>●あの1枚の写真から様々な問いが生まれますね。敬礼されなかった方の思いを想像し、その後のことを知りたいということからアウシュビッツの核心へと学びが深まっていくと思います。</p> <p>●今後(すでにの学校もありますが)、高校の現場では授業の中で「探究」を進めていくことが求められてきます。その時に、自ら「問い」を見つけ出すことが求められます。そういう意味で、この「QFT」は大変有効な方法だと思います。ですが、ワークショップの中でも話題になりましたが、問いの「変換」の必要性はしばしば議論になります。私自身もまだ違和感が残っていますが、問いを揺さぶることで「新たな問い」や「真の問い」に近づいたりすることもあります。なので、いまは頭の中では、そのような整理をしています。しかし、生徒は慣れていないのか、まだなかなかうまく問いを立てることができません。やはり訓練が必要なのだと思います。また、今回は選ばれた写真が素晴らしかったので、問いも立てやすかったように思います。このような資料選び、資料探しも大事なポイントだと思いました。</p> <p>●大変勉強になりました。何度か参加を重ねることで、ストーンと落ちるものが見えてくるような気がします。問いを持ち続けることは学び続けることでもあると思います。激変していく時代においても、とても重要なことと感じました。また参加させていただきたいです。</p>

3-2-49 オンライン版大学生ヨーロッパスタディツアー 三日間

開催日時	2021/3/24(水)18:30 - 20:30 1日目 2021/3/26(金)18:30 - 21:00 2日目 2021/3/27(土)18:30 - 21:00 3日目
経緯	2015年から大学生協と実施しているヨーロッパピーススタディツアーがコロナ禍で実施できなくなったため、オンラインで提供できるプログラムを企画した
内容	1日目 オリエンテーション&ワークショップ「アウシュヴィッツからの問い」 2日目 ドイツ抵抗記念館ワークショップ 3日目 カロルとアナの平和ラボ、インタビュー
会場	オンライン zoom ミーティング

参加費	3,500 円 (ゲスト講師および通訳者への謝礼を含む)
参加者	大学生 27 名
	<p>●3日間ありがとうございました。色々な大学・興味関心のある学生たちと少しでも交流できたことは、自分にとっても刺激になってとても良かったです。また、実際に現地で熱量を持って活動されている人たちの話を聞いて、知識を得るだけでなく、自分もより深く考えて周りに伝えていきたいというモチベーションを上げることが出来ました。今回登壇いただいたゲストの方々のメッセージで共通していたことは、「物事を2項対立で見ない」と言うことだと感じました。特に、平和ラボのロゴに込められたメッセージには心を動かされました。私も、物事を多角的に見る努力を続けていきたいと思います。</p> <p>●普段は会えない他大他学部の学生とオンラインでも交流できたのは楽しかったです。通訳も、お二人ともとても丁寧で、すごく開かれた学習の場にする工夫がめちゃくちゃこなされていてすごいなと思いました。</p> <p>●楽しかったです。勉強になったし、他の意欲的な参加者の姿勢が刺激になりました。現地の人と繋ぐのは良い経験でした。</p> <p>●最初にブレイクアウトを作って雑談できたのは楽しかったですし、刺激にもなりました。</p> <p>●とても和やかな雰囲気楽しく、かつ学べる有意義な時間でした。</p> <p>●問いをたてると意識的にその問題について考えるようになり、現地の方のお話を聞く際も主体的に思考していったと思います。ただ、問いをたてるなかで知識差が出てしまい、基礎的な知識の問いを立てた方の疑問は最後まで解決しなかったのかなと思います。限られた時間ではありますが、知識を学べる機会・企画もあるとより良いのかもしれない。”</p> <p>●ドイツの人やポーランドの人がどのように人権問題を捉えているのかが分かり、見習わなければならないことがあると思った。</p> <p>●これまでの教育課程でアンナの日記などを除いて、ヨーロッパの人権侵害について扱われる方もなく、高校以降の世界史でもマクロの政局の視点から教えられることはあってもマクロの個人の活動に視点が据えられることはなく初めて知ることばかりでした。</p> <p>●問作りのワークショップはとてもいい機会になった。そして、2日目のセミナーはとっても貴重で新鮮で自分の中で得るものがとても多かった。</p> <p>●今回、このような機会に参加できて本当によかったです！以前 CIEE のオンラインでのボランティアイベントで、ふみこさんの NPO について教えていただき、今回参加しました！自分自身は分野は違いますが、NGO 団体に活動しています。今回の WS ではドイツでのホロコーストが起こった根幹には、見て見ぬ振りをしてきた、世の中の動きに逆らえなかった、社会全体に問題があって、現在でもイスラム教徒や黒人への差別があることも同じような原因なのではないかと思いました。社会を変えようとするのは難しいし途方もないようにも感じますが、今回の WS では楽しみながら自分たち一人一人にできる思いやりを持つことという当たり前のことから始めよう！と思うことができました。ふみこさんの NPO のお話もお聞きしたかったです。みなさんととても気さくでオンラインで緊張しましたが、3日間参加できました。ありがとうございました！！</p>

4 人権・平和教育に関する普及啓発事業

4-1. 「Kokoro 通信」(ニュースレター)

コロナ禍で事業をオンラインに移行するための準備に時間がかかったため Kokoro 通信(A4、8 ページ)が1月に遅れた。300部発行し、会員を中心に、全国の教員・保護者・自治体を中心に配布した。

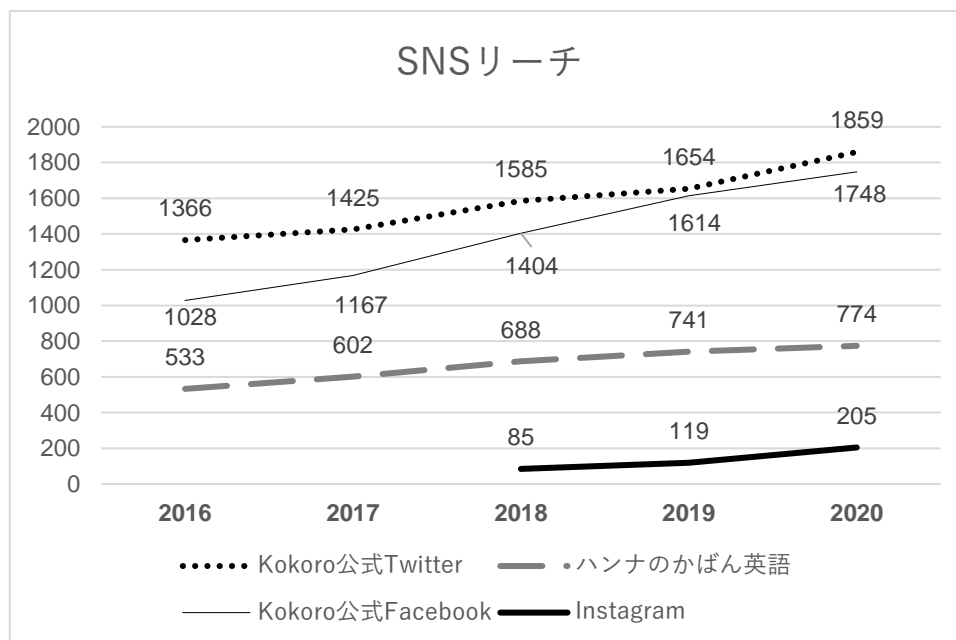
4-2. 「Kokoro メルマガ」の発行

Kokoro メルマガは、12回発行した。イベント情報ほか様々な話題を合計9,783名にメールで提供した。いずれも、ホロコースト史を教材とした人権教育の意義や成果を分かりやすく伝え、理解してもらうための手段として発行した。

	号数	発行時期	タイトル	発行部数
1	87号	2020/4/16	Kokoro オンライン講座	700
2	88号	2020/4/23	『アンネの日記』読書会&ワークショップ	700
3	89号	2020/5/19	アウシュヴィッツからの問い	700
4	90号	2020/6/17	手紙を書く	700
5	91号	2020/7/27	夏休み高校生・大学生企画	738
6	92号	2020/9/9	記憶の文化を育む	738
7	93号	2020/10/13	ベルリンと繋いでライブトーク	738
8	94号	2020/10/23	人はなぜ記念碑をつくるのか	738
9	95号	2020/11/19	20代若者による朗読劇	796
10	96号	2020/12/3	アジアの若者たちと初の共催	804
11	97号	2020/12/23	共に生きる未来のために	804
12	98号	2021/1/21	国連・国際デー	813
13	99号	2020/2/23	問う力を育む	814

4-3. その他の SNS(ソーシャルネットワーキングサービス)を利用した情報発信

ブログやフェイスブック、ツイッターなどの SNS による定期的な情報発信を継続して行った。海外のニュースや、新刊図書の案内、Today in History(今日は何の日)、など歴史を身近に感じてもらえるような情報発信を心がけた。コロナ禍でイベント情報は SNS での広報が最も効果的だった。昨年より新しく YouTube でも Kokoro のチャンネルを開設し、映像記録の公開および広報動画の投稿をはじめた。



4-4. メディア寄稿、取材

下記の雑誌、新聞、テレビで活動が取り上げられた。

1. 2020年11月26日	媒体 岐阜新聞
タイトル	アウシュビッツ裁判証言を朗読／29日、劇をライブ配信 岐阜市出身のいずみ凜さん構成
経緯・内容	ドイツ国際支援基金助成事業の一つとして 11/29 配信した「追究 - アウシュビッツの歌」の構成を担当していただいた脚本家のいずみ凜さんの紹介と告知記事
2. 2020年11月28日	媒体 毎日新聞
タイトル	アウシュビッツ裁判 朗読劇／無自覚に虐殺に加担した市民の姿描く ／NPO・あす生配信 岐阜市出身・いずみ凜さん構成
経緯・内容	ドイツ国際支援基金助成事業の一つとして 11/29 配信した「追究 - アウシュビッツの歌」の構成を担当していただいた脚本家のいずみ凜さんの紹介と告知記事
3. 2020年12月7日	媒体 毎日新聞
タイトル	支局長からの手紙／過去の罪
経緯・内容	朗読劇『追究 アウシュビッツの歌』の配信を見ていただきコラムを掲載していただいた
4. 2020年12月29日	媒体 文化放送
タイトル	文化放送戦後75年企画 シリーズ～封印された真実 『ホロコースト零（ゼロ）地点～私は生き延びた』 ホスト アーサー・ビナードさん 出演 Kokoro 代表・石岡史子
経緯・内容	Kokoro で取材をしてきた3人のホロコースト生還者を取り上げた番組 ・ヤーノシュ・ツェグレディさん ・モリス・チャンドラーさん ・サロモン・ペレルさん

岐阜市出身のいずみ凜さん構成

アウシュビッツ 裁判証言を朗読

29日、劇をライブ配信

料センター（東京）でドイツ政府の助成を受けて実施する。

20代の役者たちが向き合う。「追究」は強制・絶滅収容所の実態を明らかにした1960年代の「アウシュビッツ裁判」を描いたドキュメンタリー演劇作品。「命を促さなければ」「私は知らなかった」と淡々と語る加害側と、残酷な場を生き延びた元収容者の証言を、東京都内で活躍する若手役者8人が1時間15分かけてライブで朗読する。午後2時半からは、視聴者との対話も予定する。

主催は県内でも学校公演や講演の実績があるNPO法人「ホロコースト教育資料センター」のホームページ（<https://npo.kokoro.com/20201129/>）から申し込み。出演は次の皆さん。（堀岡人）
池田崇徳、石川湖太郎、遠藤広大、遠藤真緒子、小黒沙耶、西村優子、松本正樹、山岡彰斗

2020年11月26日
岐阜新聞

アウシュビッツ裁判 朗読劇

無自覚に虐殺に加担した市民の姿描く

アウシュビッツ強制収容所でホロコースト(大虐殺)に加担した看守らを描いた裁判を題材にした朗読劇「追究 アウシュビッツ」が20日午後、オンラインで配信された。無自覚なまま虐殺に関与した市民たちの姿を描く。構成を担当した坂井伸也(伸也)は「アウシュビッツの歴史を学ぶことは、決して楽なことではない」と語る。

「追究」は、アウシュビッツ強制収容所でホロコースト(大虐殺)に加担した看守らを描いた裁判を題材にした朗読劇「追究 アウシュビッツ」が20日午後、オンラインで配信された。無自覚なまま虐殺に関与した市民たちの姿を描く。構成を担当した坂井伸也(伸也)は「アウシュビッツの歴史を学ぶことは、決して楽なことではない」と語る。

NPO・あす生配信 岐阜市出身・いずみ凛さん構成



朗読劇「追究 アウシュビッツ」の俳優たち(東京都板橋区で)。右側から石岡史子さん(左)、藤原あかりさん(右)。

いずみ凛さんは「追究」の構成を担当した。岐阜市出身の彼女は、2019年にNPO「あす生」を立ち上げた。あす生は、オンラインで配信された「追究」の構成を担当した。岐阜市出身の彼女は、2019年にNPO「あす生」を立ち上げた。あす生は、オンラインで配信された「追究」の構成を担当した。

2020年11月28日 毎日新聞

支局長からの手紙

朗読劇「追究 アウシュビッツの歌」(ベーター・バイス原作)が先月末、東京のアトリエで、日本語で上演されました。インターネットで配信され、沖縄や北海道、岐阜などに加え、ドイツ、中国、イギリスにいる約120人が見ました。アウシュビッツ強制収容所での組織的な虐殺に職務として加わった人々を、ドイツ人自身が戦後に裁いた実際の法廷でのやりとりを再現した芝居です。

虐殺の実行者と生存者、裁判官、検事といった多数の登場人物を、立場を入れ替えながら、20代の男女8人が演じました。公演後、俳優たちが演じた感想を、観客に語る

過去の罪

時間も設けられませんでした。ホロコーストについて、小中学校で習い関心があつたという女性や、日本で初めて触れたと明かす男性もいました。しかし知識の量に関係なく、他国での過去の出来

事に、全員が自分の問題として向き合ったことが分かる真摯な言葉が紡ぎだされました。パソコン画面を通じ、現代の若者たちを取り上げたドキュメンタリーと朗読劇を組み合わせて見たよう

「(加害者または第三者として)自分が虐殺の場にいたら、どうなるかわからない。目をそらすか、発せられていないことに気づきました。メ

モで1度だけです。今回の劇が、ドイツ政府による外国の芸術活動への助成を受けたことを、主催団体のNPO「ホロコースト教育資料センター」(東京)の石岡史子代表から説明され、「意味を考えてほしい」と問いかけられたというのです。

【花岡洋一】

2020年12月7日 毎日新聞

2. 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額
① 教材の制作及び提供事業	ホロコーストの教材パネルやビデオの制作・貸出	0回	事務所	1名	0名	73,006
② 書籍・資料などの収集及び提供事業	SNS などでのおすすめ図書の紹介	随時	事務所	1名	教育関係者、一般100名	91,418
	ブクログ(登録1381冊)					
③ 講演会、セミナー等の開催事業	訪問授業および講演会	36回	小中高校、大学	7名	小中高校生、大学生、教員、保護者、一般7,200人以上	4,838,262
	NPO 自主企画	50回	オンライン		2,113人	
④ 人権・平和教育に関する普及啓発事業	ニュースレター作成・配布	1回	事務所	2名	会員、教員、大学生、保護者など300名	697,312
	メールマガジン	13回		2名	9,783名	
	ホームページ、ブログ	随時		2名	不特定多数	
	メディア寄稿・出演	4回		1名	不特定多数	
	SNS ツールの活用 ・ Facebook ・ Twitter ・ Instagram ・ YouTube	週3回		3名	34,747人～不特定多数	